

平成 20 年度
(2008)

病 院 年 報

市 立 敦 賀 病 院

病 院 理 念

市立敦賀病院は、

信頼され、温もりのある

医療をめざします。

基 本 方 針

患者さん中心の心のかよう医療を行います。

患者さんにやさしい、開かれた病院をつくります。

質の高い効率的な医療をわかりやすく提供します。

職 員 指 標

礼 儀 ・ 親 切 ・ 情 熱 ・ 責 任 ・ 技 能

はじめに

市立敦賀病院 院長 米島 學

この度、平成 20 年度の市立敦賀病院年報を発刊するはこびとなりました。平成 19 年度からは病院年報を業績集および看護部のあゆみとあわせるかたちで発刊しております。

平成 20 年度といたしまして、平成 20 年 10 月に財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新 (Ver.5) を無事済ませることができました。より安全で良質な医療を提供するため病院の IT 化を進め、平成 21 年 1 月には電子カルテを導入しました。平成 20 年 4 月には不在であった呼吸器内科に医師 2 名を迎え、睡眠時無呼吸症候群の診断に必要な終夜睡眠ポリグラフィー装置を購入し、持続陽圧呼吸療法を導入しました。金沢大学より新たに整形外科部長を迎え、脊椎インストゥルメントを用いた脊椎再建や最小侵襲人工関節などの先端手術を開始しました。

教育面でも、引き続き管理型臨床研修病院の指定をいただき、平成 20 年度には 6 名の初期研修医を迎え、指導医のもとで日々研鑽を積んでおります。

市立敦賀病院は福井県嶺南地域の中核病院であり、嶺南地域の方々の病気を治療し、健康管理に寄与するための病院です。そのためには、病診連携をさらに強め、患者様のみならず診療所の先生方にもさらに信頼されるよう努めていかなければならないと考えています。

医療制度改革により、自治体病院を取り巻く環境は大変厳しくなっております。平成 19 年度の「市立敦賀病院のあり方検討委員会」の答申を基に、平成 20 年 12 月に「市立敦賀病院中期経営計画」を作成し、平成 21 年度から 5 カ年計画で取り組み始めました。市立敦賀病院は、患者様中心の医療を続けることこそが経営改善に繋がると考えております。健やかで豊かな地域社会の実現に貢献するため、職員一同、さらなる努力を行ってまいります。

最後に、指導医派遣にご尽力をいただいております大学当局並びに県医療行政各位に心から感謝申し上げますとともに、今後とも皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 21 年 8 月

目 次

I 病院の沿革及び現況

1	病院の沿革	1
2	病院の概要	2
3	施設の概要	3
4	設備の概要	4
5	組織図	5
6	職員の現況	6
7	入院部屋数	7
8	経営の概要	8
9	経営分析	9
10	委員会等	11

II 決算概要

1	収益的収入及び支出	17
2	資本的収入及び支出	19
3	貸借対照表	19
4	診療行為別診療収入の状況	20

III 各部署の活動状況

1	診療部	21
(1)	診療各科	21
(2)	医療安全管理室	21
2	医療技術部	23
(1)	検査室	23
(2)	放射線室	24
(3)	リハビリテーション室	24
(4)	臨床工学技術室	25
(5)	栄養管理室	25
3	薬剤部	26
(1)	薬剤室	26
4	看護部	28
5	事務局	29
(1)	総務企画課	29

(2) 医療サービス課	30
(3) 地域医療連携室	31

IV 業務の概要

1 患者の状況	33
(1) 入院・外来別患者数	33
(2) 患者数の推移	33
(3) 診療科別患者数	34
(4) 市町村別患者数	35
(5) 月別患者数	36
(6) 救急患者の取扱状況	38
(7) 患者搬送の状況	41
2 総合健診の状況	42
3 中央手術室業務の状況	43
4 種類別麻酔件数	43
5 内視鏡検査件数	43
6 周産期医療の状況	44
7 薬剤室業務の状況	45
(1) 調剤業務の状況	45
(2) 薬品の状況	45
(3) 服薬指導の状況	45
(4) 注射剤調製の状況	45
8 放射線科(室)の状況	46
(1) 撮影の状況	46
(2) フィルム使用の状況	46
(3) 血管撮影検査の状況	46
(4) MRI検査の状況	46
(5) CT検査の状況	46
(6) 核医学検査の状況	47
(7) 放射線治療の状況	47
(8) マンモグラフィーの状況	48
(9) 骨密度検査の状況	48
(10) エコー検査の状況	48
9 人工透析の状況	48
10 臨床検査の状況	49
(1) 各種検査件数	49

(2) 生理機能検査件数	49
(3) 血液製剤使用量	50
11 リハビリテーションの状況	50
12 患者給食の状況	51
13 死亡患者数及び病理解剖件数	51
14 地域医療連携の状況	52
(1) 紹介及び逆紹介の状況	52
(2) 亜急性期病床の状況	52
(3) ボランティアの活動状況	52
15 医療安全の状況	52
(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況	52
(2) 根本原因分析の実施状況	52
16 災害医療部会の活動状況	53
17 救急蘇生法普及部会の活動状況	53
18 倫理委員会の開催状況	53
19 経営評価委員会の開催状況	54
20 衛生委員会の開催状況	54

V 固定資産状況

1 有形固定資産の取得状況	55
2 主要医療機器の設置状況	55
3 企業債・減価償却の状況	56
(1) 企業債の年度別状況	56
(2) 減価償却額の年度別状況	56

VI 研究業績

1 診療部	57
2 医療技術部	62
3 薬剤部	64
4 看護部	64
5 事務局	66
6 臨床病理検討会	67

VII 看護部のあゆみ

1 理念・基本方針・目標	71
(1) 看護部理念	71

(2) 看護部基本方針	71
(3) 看護部目標	71
2 部署別目標	72
(1) 看護部目標	72
(2) 3階病棟目標	72
(3) 4階病棟目標	73
(4) 5階病棟目標	74
(5) 6階病棟目標	74
(6) 7階病棟目標	74
(7) 北3階病棟目標	75
(8) 北4階病棟目標	75
(9) 北5階病棟目標	75
(10) HCU目標	76
(11) 外来目標	76
(12) 手術室目標	77
(13) 透析センター目標	77
3 研修実績	78
(1) 院内研修実績	78
(2) 院外研修実績	79
(3) 教育研修実績	81

VIII 臨床研修プログラム概要

平成20年度 市立敦賀病院臨床研修プログラム概要	83
--------------------------	----

参考資料

○ 市立敦賀病院中期経営計画概要	87
○ 市立敦賀病院の患者権利章典	89
○ 医療事故防止のための8カ条	91

I 病院の沿革及び現況

1 病院の沿革

明治15年 2月	県立敦賀病院開設
明治24年 4月	郡制施行に伴い郡立敦賀病院に改称
大正12年 4月	郡制廃止により敦賀郡町村組合立病院に改称
昭和18年 4月	日本医療団へ現物出資
昭和24年 2月	病院開設許可（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
昭和24年 4月	日本医療団より全施設組合に返還
昭和30年 1月	町村合併により市立敦賀病院に改称
昭和38年 3月	2ヵ年度継続事業で病院本館、鉄筋コンクリート造・4階建 全面改築（4,487㎡）完成（一般172床、伝病20床、結核40床）
昭和44年10月	2ヵ年度継続事業で救急診療棟、鉄筋コンクリート造・4階建 増設（2,190㎡）完成（一般232床、伝病25床、結核40床）
昭和48年 4月	医師住宅1号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（7戸）完成
昭和49年 4月	医師住宅2号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（8戸）完成
昭和54年 5月	木造病棟を取り壊し、中央診療棟（放射線部門・手術部門病棟） 鉄筋コンクリート造・4階建増改築（3,223㎡ ^① ）完成 （一般276床、伝病25床、結核28床）
昭和62年10月	3ヵ年度継続事業で本館診療棟、鉄筋コンクリート造・7階建 増改築（12,068㎡ ^② ）完成（合計床面積 18,454㎡） （一般276床、伝病25床）
平成元年10月	神経科精神科（外来）開設
平成5年 4月	循環器科・消化器科・麻酔科開設
平成6年10月	3ヵ年度継続事業で東診療棟、救急診療棟、鉄筋コンクリート造 5階建増改築（6,486㎡ ^③ ）完成 （東病棟…完成・同年4月、運用開始・同年6月） （合計床面積 ^{①②③} 21,777㎡） （一般348床、伝病10床）
平成7年 1月	土曜閉院完全実施
平成7年12月	3ヵ年度継続事業で電算情報トータルシステム整備完了
平成9年 3月	医師住宅及び駐車場敷地購入（3,906.06㎡）
平成10年11月	医師住宅新築工事竣工 鉄筋コンクリート造・5階建（2,520.96㎡） 妻帯用12戸、単身用8戸
平成11年 1月	旧医師住宅解体
平成11年 4月	第二種感染症指定医療機関に指定（一般348床、感染症2床）
平成12年 3月	立体駐車場完成 鉄骨造2階建（4,273.18㎡）（253台収容）
平成14年 9月	神経内科開設
平成15年 9月	第3次整備建設着工（平成15年度～平成18年度継続事業）
平成15年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43号取得
平成15年11月	厚生労働省管理型臨床研修病院指定 第030944号
平成17年 3月	第3次整備建設工事のうち北診療棟（7,815㎡）完成
平成18年 7月	リハビリテーション科開設
平成18年12月	第3次整備建設工事完成
平成20年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-2号取得（更新）
平成20年12月	中期経営計画策定
平成21年 1月	電子カルテ導入

2 病院の概要（平成21年8月1日現在）

- 名 称 市立敦賀病院
- 所在地 福井県敦賀市三島町1丁目6番60号
- 開設者 敦賀市
敦賀市長 河瀬一治
- 管理者 病院長 米島 學
- 敷地面積 17,965.18㎡
- 建物延面積 30,091.96㎡
- 病院種別 総合病院（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
- 診療科目 内科、神経内科、消化器科、循環器科・心臓血管外科、小児科
外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科
耳鼻いんこう科、放射線科、神経科精神科、麻酔科
リハビリテーション科、歯科口腔外科 計18科
- 特殊診療部門 救急医療、人工透析、生活習慣病健診、人間ドック
- 許可病床数 一般病床 330床・感染症病床 2床 計332床
- 保険診療 看護基準（10：1）
基準寝具／有
- 施設基準 （基本診療料）
電子化加算（歯科のみ）、歯科外来診療環境体制加算
一般病棟入院基本料（10対1）、臨床研修病院入院診療加算
超急性期脳卒中加算、妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算、医師事務作業補助体制加算（75対1）
重症者等療養環境特別加算、栄養管理実施加算
医療安全対策加算、褥瘡患者管理加算、ハイリスク妊娠管理加算
後期高齢者総合評価加算、後期高齢者退院調整加算
小児入院医療管理料3、亜急性期入院医療管理料1

（特掲診療料）
高度難聴指導管理料、糖尿病合併症管理料、ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料、ハイリスク妊産婦共同管理料（I）
薬剤管理指導料、医療機器安全管理料1
検体検査管理加算（I）・（II）
神経学的検査、コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査、画像診断管理加算1
画像診断管理加算2、CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算、心臓MRI撮影加算
外来化学療法加算2、無菌製剤処理料

脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
 体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章
 第9部の通則4を含む。）に掲げる手術、麻酔管理料
 補綴物維持管理料

（入院時食事療養及び入院時生活療養の食事の提供たる療養の基準）
 入院時食事療養（Ⅰ）

（保険外併用療養費）
 特別の療養環境の提供、金属床による総義歯の提供
 病院（200床以上）の初診

- 診療指定
- 保険医療機関、労災保険指定医療機関
 - 指定自立支援医療機関（更正医療・育成医療・精神通院医療）
 - 身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
 - 生活保護法指定医療機関
 - 結核指定医療機関、指定養育医療機関
 - 原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
 - 第二種感染症指定医療機関、公害医療機関
 - 母体保護法指定医の配置されている医療機関
 - 災害拠点病院、エイズ治療拠点病院
 - 特定疾患治療研究事業委託医療機関
 - 指定療育機関、小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
 - 地域周産期母子医療センター 等

- その他指定・認定
- 財団法人日本医療機能評価機構認定
 - 厚生労働省基幹型臨床研修病院指定

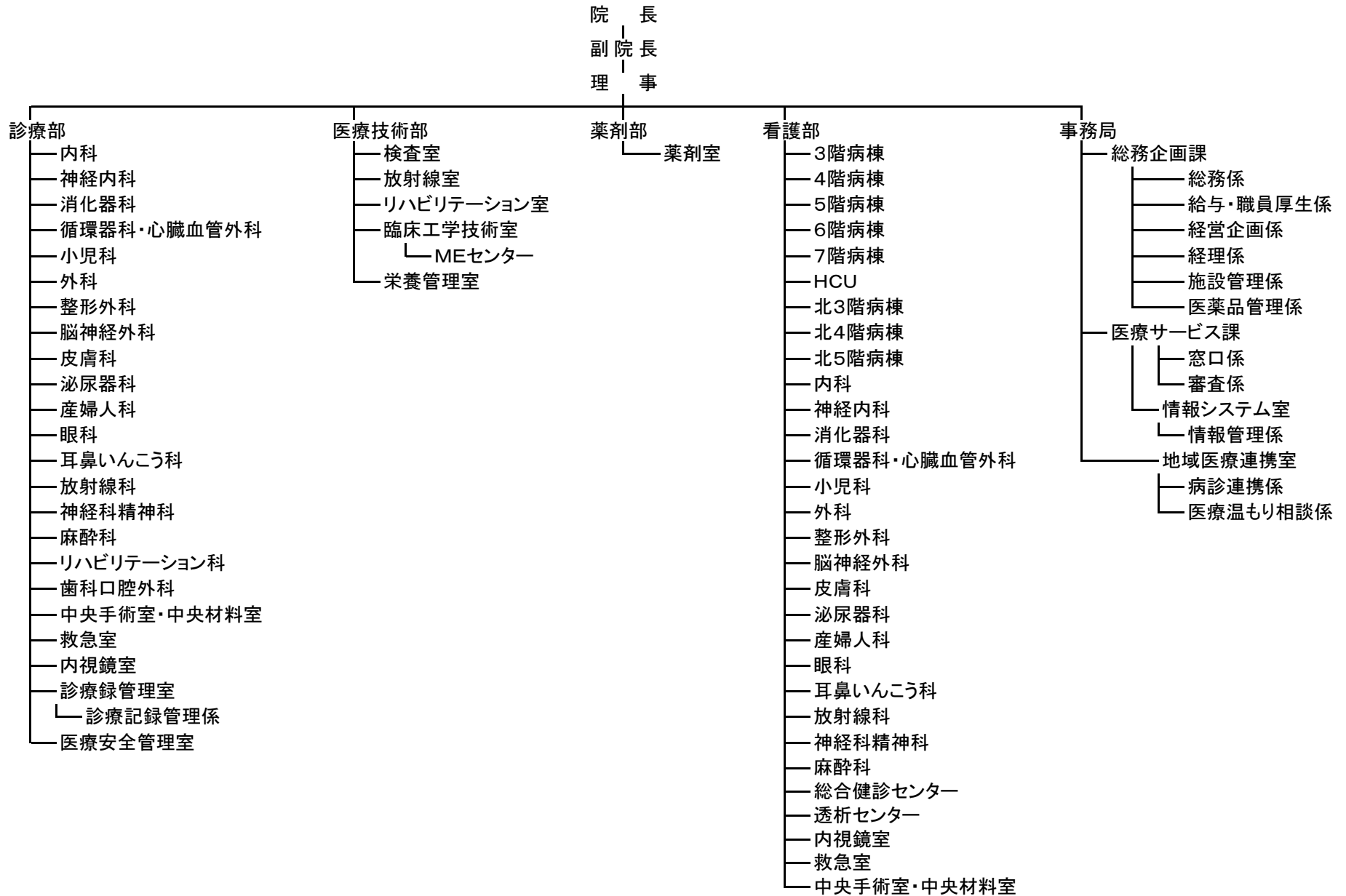
3 施設の概要

敷地面積	17,965.18㎡
建物延面積	30,091.96㎡
	本館診療棟 12,067.92㎡
	中央診療棟 3,223.29㎡
	東診療棟 6,486.02㎡
	北診療棟 8,314.73㎡
	計 30,091.96㎡

4 設備の概要

受 変 電	設備容量：6,500KVA 契約電力：1,150KW 受電電圧：6,600V（2系統受電）
非常用電源設備 無停電電源装置	発電機容量：625KVA×2・200KVA×1 50KVA×4
太陽光発電設備	太陽電池アレイ×90 最大出力10KW
弱 電 設 備	構内電話・コードレス電話設備 インターホン設備 ナースコール設備 電気時計設備 TV共聴設備
消 防 設 備	自動火災報知設備 排煙設備 誘導灯 スプリンクラー設備 非常放送設備 非常通報設備 屋内消火栓設備
熱 源 設 備	炉筒煙管蒸気ボイラー：1.5t/h 2基 貫流蒸気ボイラー：0.75t/h 2基 スチームアキュムレーター：30m ³ 1基
空 調 設 備	吸収式冷温水機 5基（330RT×2・240RT×1・50RT×2） 水冷チラーユニット：1基 エアーハンドリング空調機 ガスエンジンヒートポンプマルチエアコン 電気式ヒートポンプマルチエアコン ファンコイルユニット
給 水 設 備	受水槽：SUSパネル55t×2 SUSパネル25t×2 高架水槽：SUSパネル16t×2 SUSパネル7t×1 雑水高架水槽：SUSパネル13t×2 SUSパネル7t×1
排 水 設 備	一般排水系統 R1排水系統 特殊排水系統
給 湯 設 備	貯湯槽：SUS4.5t×2 SUS3.0t×2
浄 化 槽 設 備	R1処理槽
医 療 ガ ス 設 備	液体酸素設備 圧縮空気供給設備 亜酸化窒素供給設備 窒素供給設備 吸引設備
昇 降 機 設 備	寝台用エレベーター：10基 一般エレベーター：2基 ダムウェーター：2基
搬 送 設 備	気送管設備：85φ14ST1系統・15φ4ST1系統

5 組織図



6 職員の現況

年度末現在

	平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	合計	臨時嘱託再掲	合計	臨時嘱託再掲	合計	臨時嘱託再掲
医 師	41	5	42	4	47	8
薬 剤 師	11	1	10		10	
診療放射線技師	13	1	12	1	13	
臨床検査技師	18	3	18	4	16	3
臨床工学技士	4		3		2	
認定心理士	1	1	1	1	1	1
理学療法士	4		4		5	
作業療法士	3		2		2	
マッサージ師	2		2		2	
言語聴覚士	1		2		1	
歯科衛生士	2		4	3	5	3
栄養士	5	2	4	1	5	1
調理員	18	4	19	4	18	4
保健師			2		2	
助産師	11		11		10	
看護師	191		196		204	2
准看護師	38	4	36	5	35	6
事務職員	29	6	26	6	31	10
電気技師	2		2		1	
建築技師						
自動車運転手	1		1		1	
電話交換手	2	1	2	1		
その他職員	10	8	9	7	9	6
合 計	407	36	408	37	420	44

7 入院部屋数(平成21年8月1日現在)

	本館3階		本館4階		本館5階	本館6階	本館7階		北3階			北4階	北5階	合計
		ドック		亜急性				無菌室		小児入院	感染症病床			
特 室	(1)		(1)			(1)			(1)			(1)		(5)
	1		1			1			1			1		5
1 人 部 屋	(6)	(6)	(5)		(9)	(5)	(4)	(1)	(2)	(6)	(2)	(8)	(6)	(60)
	6	6	5		9	5	4	1	2	6	2	8	6	60
重 症 1 人 部 屋									(6)					(6)
									6					6
2 人 部 屋	(2)				(4)	(4)	(4)		(2)					(16)
	1				2	2	2		1					8
重 症 2 人 部 屋	(2)		(2)		(2)	(2)	(2)					(2)		(12)
	1		1		1	1	1					1		6
3 人 部 屋														0
														0
4 人 部 屋	(32)		(24)	(8)	(20)	(24)	(24)		(32)	(4)		(36)	(24)	(228)
	8		6	2	5	6	6		8	1		9	6	57
5 人 部 屋													(5)	(5)
													1	1
合 計	(43)	(6)	(32)	(8)	(35)	(36)	(34)	(1)	(43)	(10)	(2)	(47)	(35)	(332)
	17	6	13	2	17	15	13	1	18	7	2	19	13	143

上段・・・病床数()

下段・・・病室数

8 経営の概要

年度	収益的収支(単位:千円)			資本的収支(単位:千円)			一般会計繰入金(単位:千円)			医業収支 比率 医業収入 医業費用	職員給与 率 職員給与費 医業収入	年度末 職員数 (臨時嘱託)	病 床 利用率	病床数
	収入	支出	純損益	収入	支出	差引	収益勘定	資本勘定	合計					
15	6,083,749	6,064,610	19,139	565,917	874,887	△ 308,970	532,360	116,064	648,424	92.0	59.7	(31) 408	85.1	350
16	5,889,693	5,888,010	1,683	3,530,410	4,146,531	△ 616,121	587,048	114,915	701,963	89.4	64.2	(39) 425	82.9	350
17	5,771,610	6,043,377	△ 271,767	1,994,204	2,561,175	△ 566,971	881,441	118,204	999,645	78.8	70.8	(40) 429	69.6	350
18	5,510,073	6,236,879	△ 726,806	1,441,334	1,502,963	△ 61,629	509,443	188,434	697,877	78.1	71.7	(36) 407	79.7	296
19	5,929,677	6,246,771	△ 317,094	420,949	420,949	0	706,177	291,949	998,126	82.4	66.6	(37) 408	78.5	332
20	6,538,035	6,838,546	△ 300,511	290,460	327,360	△ 36,900	745,013	290,460	1,035,473	83.6	65.0	(44) 420	83.6	332

9 経営分析

分析項目		算出	単位	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
1日当り患者数	入院	入院患者数 入院診療日数	人	366日 298	365日 290	365日 243	365日 236	366日 261	365日 278
	外来	外来患者数 外来診療日数	人	246日 932	243日 869	244日 744	245日 744	245日 754	243日 747
	合計		人	1,230	1,159	987	980	1,015	1,025
医師1人1日当り患者数	入院	1日当り入院患者数 医師数	人	6.34	6.59	6.23	5.76	6.21	5.91
	外来	1日当り外来患者数 医師数	人	19.83	19.75	19.08	18.15	17.95	15.89
	合計		人	26.17	26.34	25.31	23.91	24.16	21.80
医業収支対前年率	医業収益の対前年度比	当年度医業収益 前年度医業収益	%	82.86	94.31	89.39	98.92	108.23	111.67
	医業費用の対前年度比	当年度医業費用 前年度医業費用	%	85.08	97.04	101.43	99.81	102.59	110.09
	差引増減		%	△ 2.22	△ 2.73	△ 12.04	△ 0.89	5.64	1.58
患者1人1日当り診療収入	入院	入院収益 入院患者数	円	29,151	28,746	29,095	30,848	30,893	33,387
	外来	外来収益 外来患者数	円	7,947	8,040	8,863	8,136	8,396	9,084

分析項目		算出	単位	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
医業収益に対する医業費用の割合	給与費	<u>給与費</u> 医業収益	%	59.73	64.23	70.82	71.74	66.60	64.98	
	材料費	薬品費	<u>薬品費</u> 医業収益	%	18.52	14.83	18.31	15.68	15.68	15.27
		診療材料費	<u>診療材料費</u> 医業収益	%	9.50	8.76	9.44	8.33	9.62	11.50
		給食材料費	<u>給食材料費</u> 医業収益	%	1.68	1.75	1.65	1.56	1.57	1.46
		医療消耗備品費	<u>医療消耗備品費</u> 医業収益	%	0.07	0.08	0.40	0.25	0.06	0.05
		小計		%	29.77	25.41	29.79	25.81	26.93	28.29
	経費	<u>経費</u> 医業収益	%	13.10	16.16	20.11	21.71	20.31	20.09	
	減価償却費	<u>減価償却費</u> 医業収益	%	5.66	5.66	5.49	8.01	7.10	5.68	
	資産減耗費	<u>資産減耗費</u> 医業収益	%	0.11	0.05	0.27	0.37	0.00	0.03	
	研究研修費	<u>研究研修費</u> 医業収益	%	0.30	0.31	0.40	0.39	0.41	0.57	
	合計	<u>医業費用</u> 医業収益	%	108.67	111.82	126.88	128.02	121.35	119.63	

10 委員会等

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
管理運営・診療委員会	1 病院管理運営上の基本方針策定及び審議に関すること 2 診療業務の検討及び連絡に関すること	全 職 種	院 長	総務企画課	月 1 回	
医療安全対策委員会	医療事故の防止及び対策に関すること	医師、臨床検査技師、薬剤師 看護師、事務局職員	副院長	医療安全管理室	月 1 回	医療法 施行規則
リスクマネジメント部会	1 インシデント事例の原因分析及び予防策の立案に関すること 2 医療安全に関する広報・研修・教育等に関すること	全 職 種	診 療 部 長	医療安全管理室	月 1 回	
救急蘇生法普及部会	心肺蘇生法の普及とその意識の向上に関すること	医師、看護師 事務局職員	医 長	総務企画課	随 時	
病棟管理委員会	病棟の適正な入院環境の運営に関すること	医師、看護師 事務局職員	科部長	医療サービス課	月 1 回	
院内感染対策委員会	1 感染症の院内感染予防対策に関すること 2 MRSA による院内感染予防対策に関すること	全 職 種	院 長	総務企画課	月 1 回	医療法 施行規則
患者サービス向上 検討委員会	外来、入院患者に対する接客等のサービスの向上に関すること	全 職 種	副院長	地域医療連携室	月 1 回	
褥瘡対策委員会	1 褥瘡と合併する感染予防の実施、監視及び指導に関すること 2 感染褥瘡源の調査に関すること	全 職 種	科部長	総務企画課	月 1 回	
電算委員会	医療情報トータルシステムの整備推進に関すること	全 職 種	副院長	医療サービス課	月 1 回	
薬事委員会	1 新規採用薬品に関すること 2 採用薬品の統合整理に関すること 3 その他薬事に関すること	医師、薬剤師 事務局職員	副院長	薬 剤 室	年 5 回	
診療録管理委員会	1 入院患者のカルテ管理に関すること 2 病歴管理に関すること	医師、臨床検査技師、看護師、事務局職員	理 事	診療録管理室	月 1 回	診療録管理 体制加算

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
クリティカルパス委員会	1 診療の質の適正化に伴う標準的な治療計画の作成に関すること 2 治療計画の説明により、患者の満足度の向上に関すること 3 その他適正な医療プログラム作成に関すること	医師、看護師、事務局職員	理事	医療サービス課	月1回	
診療材料委員会	1 新規採用診療材料に関すること 2 診療材料の統合整理に関すること 3 その他診療材料に関すること	医師、放射線技師、臨床検査技師、看護師、事務局職員	科部長	総務企画課	月1回	
部長会	1 病院運営の基本方針に関すること 2 重要な施策に関すること 3 企画推進に関すること	全職種	院長	総務企画課	随時	
倫理委員会	医療職員の高い資質の高揚及び医の倫理に関すること	医師、看護師、事務局職員 学識経験者	院長	総務企画課	随時	
栄養管理委員会	給食に係るサービス改善等に関すること	医師、栄養士、看護師、事務局職員	理事	栄養管理室	年4回	
栄養サポート部会	栄養サポートに関すること	全職種	医長	栄養管理室	随時	
後発薬剤採用検討委員会	院内で使用する後発薬剤採用に係る調査検討に関すること	医師、薬剤師、事務局職員	院長	総務企画課	随時	
治験審査委員会	医薬品の臨床試験の実施に関すること	医師、薬剤師、事務局職員	副院長	薬剤室	随時	薬事法施行規則

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
地域医療連携室運営委員会	1 病診連携業務体制の整備に関すること 2 開放型病床設置における業務体制整備に関すること 3 地域医療機関からの要望の対応に関すること	全 職 種	副 院 長	地域医療連携室	随 時	
H C U 運 営 委 員 会	HCU の円滑・適正な管理運営に関すること	全 職 種	科 部 長	総務企画課	随 時	
血 液 製 剤 管 理 委 員 会	輸血用血液製剤の取扱いに関すること	全 職 種	理 事	総務企画課	随 時	輸血管理料
臨 床 研 修 管 理 委 員 会	臨床研修プログラムに関すること	医師、看護師、事務局職員	院 長	総務企画課	随 時	厚生労働省令
図 書 委 員 会	図書の整備と有効活用に関すること	医師、臨床検査技師、看護師、事務局職員	診 療 部 長	総務企画課	随 時	
防 火 対 策 委 員 会	1 消防計画に関すること 2 その他防災に関すること	全 職 種	院 長	総務企画課	随 時	市立敦賀病院 防火管理規程
ボ ラ ン テ ィ ア 委 員 会	ボランティア業務に関すること	医師、放射線技師、薬剤師、看護師、事務局職員	課 長	地域医療連携室	随 時	
医 療 ガ ス 安 全 委 員 会	1 医療ガス設備に係る保守点検に関すること 2 医療ガスに係る知識の普及と啓発に関すること	医師、看護師、事務局職員	科 部 長	総務企画課	年 1 回	厚生労働省 通 知
衛 生 委 員 会	1 院内衛生の改善に関すること 2 職員の健康に関すること(健康診断、保持増進の指導等)	医師、放射線技師、臨床検査技師、看護師、事務局職員	事 務 局 長	総務企画課	月 1 回	労 働 安 全 衛 生 法

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
MEセンター運営委員会	MEセンター業務及びME機器の効果的な管理運営に関すること	医師、臨床工学技士、事務局職員	理事	総務企画課	随時	
病院年報編集委員会	病院年報の編集に関すること	医師、薬剤師、看護師 事務局職員	院長	総務企画課	随時	
機能評価推進委員会	機能評価の受審に関すること	全職種	副院長	総務企画課	随時	
化学療法委員会	化学療法に関すること	医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師、事務局職員	診療部長	総務企画課	随時	
検体検査適正化委員会	検体検査の適正化に関すること	医師、臨床検査技師、看護師、事務局職員	科部長	総務企画課	随時	検体検査管理加算
放射線安全委員会	放射線障害の防止に関すること	医師、放射線技師、事務局職員	理事	総務企画課	随時	放射線障害予防規程
救急室・外来運営委員会	救急室、外来の運営に関すること	全職種	診療部長	総務企画課	随時	
災害医療部会	災害医療に関すること	全職種	科部長	放射線室	月1回	
教育研修委員会	教育研修に関すること	全職種	副院長	総務企画課	随時	
経営評価委員会	1 経営の評価に関すること 2 医療安全の評価に関すること 3 その他病院運営の評価に関すること	医師、看護師 事務局職員 外部評価委員	院長	総務企画課	随時	
医局会	1 病院運営上の診療に関すること 2 医療の知識・技術の向上に関すること 3 医師相互の連絡調整に関すること	医師、薬剤師	医局長	診療部	月1回	

(看護部内委員会等)

委員会等	所掌する事項	開催 頻度
師 長 会	病院運営下部組織会議としての役割を果たし、看護の質を高め、円滑化を図るための諸問題に関する事	月 2 回
主 任 会	看護師長の補佐として、看護職員の指導・教育・業務改善・医療事故防止等の諸問題に関する事	月 1 回
リスクマネジメント部会	インシデントレポートの把握、再発防止啓蒙・教育に関する事	月 1 回
教 育 委 員 会	教育(全体・卒後・看護研究)・接遇・固定ナーシングチームに関する事	月 2 回
業 務 委 員 会	看護業務の改善、基準・手順の見直し、患者の安全、院内感染防止に関する事	月 2 回
記 録 委 員 会	1 看護記録に関する事 2 看護支援システムに関する事	月 2 回
看護展実行委員会	看護展に関する事	随 時

Ⅱ 決算概要

1 収益的收入及び支出

収入

単位:千円

	18年度		19年度		20年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業収益	5,510,073	95.5	5,929,677	107.6	6,538,035	110.3
医業収益	4,406,993	98.9	4,769,783	108.2	5,326,644	111.7
入院収益	2,654,804	102.7	2,947,291	111.0	3,384,202	114.8
外来収益	1,482,924	92.1	1,551,140	104.6	1,648,737	106.3
その他医業収益	269,265	103.7	271,352	100.8	293,705	108.2
医業外収益	1,099,395	83.7	1,156,389	105.2	1,207,894	104.5
受取利息	48	16.5	79	164.6	60	75.9
他会計負担金	415,456	79.2	354,907	85.4	499,705	140.8
補助金	361,172	88.4	393,456	108.9	382,782	97.3
財産収益	6,936	116.3	7,216	104.0	7,690	106.6
基金繰入金	0	—	0	—	14,802	皆増
患者外給食収益	527	139.1	745	141.4	859	115.3
その他医業外収益	24,954	125.3	52,221	209.3	60,185	115.3
他会計補助金	90,302	25.6	347,765	385.1	241,811	69.5
寄附金	200,000	皆増	0	皆減	0	—
附帯事業収益	3,685	97.7	3,505	95.1	3,497	99.8
他会計負担金	3,685	97.7	3,505	95.1	3,497	99.8

支出

単位:千円

	18年度		19年度		20年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業費用	6,236,879	103.2	6,246,771	100.2	6,838,546	109.5
医業費用	5,641,864	99.8	5,788,223	102.6	6,372,443	110.1
給与費	3,161,418	100.2	3,176,762	100.5	3,461,061	108.9
給料	1,343,897	96.2	1,314,880	97.8	1,311,222	99.7
手当等	1,108,741	97.4	1,108,888	100.0	1,174,561	105.9
賃金	236,850	133.9	273,898	115.6	330,435	120.6
法定福利費	374,800	99.3	366,177	97.7	371,155	101.4
退職給与費	97,130	149.6	112,919	116.3	273,688	242.4
材料費	1,137,446	85.7	1,284,561	112.9	1,506,759	117.3
薬品費	690,843	84.7	747,991	108.3	813,524	108.8
診療材料費	367,072	87.3	458,863	125.0	612,775	133.5
給食材料費	68,613	93.6	74,977	109.3	78,032	104.1
医療消耗備品費	10,918	60.6	2,730	25.0	2,428	88.9
経費	956,741	106.8	968,795	101.3	1,070,040	110.5
厚生福利費	2,982	101.3	2,825	94.7	2,775	98.2
報償費	235	57.6	426	181.3	15	3.5
旅費	8,226	118.3	9,971	121.2	9,106	91.3
職員被服費	1,212	85.5	1,223	100.9	940	76.9
消耗品費	31,377	91.0	29,777	94.9	37,355	125.4
消耗備品費	20,673	78.1	373	1.8	3,388	908.3
光熱水費	79,255	100.1	80,234	101.2	86,988	108.4
燃料費	49,472	102.0	51,743	104.6	60,030	116.0
食糧費	558	51.4	310	55.6	159	51.3
印刷製本費	5,641	80.6	5,066	89.8	4,805	94.8

単位:千円

	18年度		19年度		20年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
修繕費	28,577	98.5	44,095	154.3	82,505	187.1
保険料	11,565	100.6	10,862	93.9	13,071	120.3
賃借料	248,410	110.1	270,317	108.8	278,905	103.2
通信運搬費	7,510	95.8	7,617	101.4	7,966	104.6
委託料	453,754	110.7	446,470	98.4	473,624	106.1
交際費	5	9.8	0	皆減	29	皆増
公課費	84	142.4	59	70.2	84	142.4
諸会費	1,284	101.1	1,218	94.9	1,247	102.4
雑費	5,921	253.9	6,209	104.9	7,048	113.5
減価償却費	353,067	144.3	338,619	95.9	302,504	89.3
建物減価償却費	196,545	309.3	207,357	105.5	207,142	99.9
構築物減価償却費	2,958	155.0	2,854	96.5	2,724	95.4
器械備品減価償却費	152,755	85.6	127,599	83.5	91,988	72.1
車両減価償却費	809	92.9	809	100.0	650	80.3
無形固定資産減価償却費	0	皆減	0	—	0	—
資産減耗費	16,217	132.5	102	0.6	1,539	1508.8
固定資産除却費	16,217	132.5	102	0.6	1,539	1508.8
研究研修費	16,975	96.1	19,384	114.2	30,540	157.6
謝金	4,194	124.0	3,943	94.0	3,865	98.0
図書費	4,412	104.4	5,162	117.0	4,511	87.4
旅費	5,673	84.3	4,956	87.4	7,497	151.3
消耗品費	51	38.6	15	29.4	5,320	35466.7
食糧費	14	皆増	1,305	9321.4	3,783	289.9
印刷製本費	198	660.0	650	328.3	118	18.2
委託料	0	—	473	皆増	0	皆減
負担金	2,308	75.9	2,670	115.7	4,594	172.1
雑費	125	96.2	210	168.0	852	405.7
医業外費用	584,647	153.5	446,796	76.4	454,699	101.8
支払利息	221,976	98.7	221,350	99.7	205,984	93.1
企業債利息	220,882	98.2	213,853	96.8	205,349	96.0
一時借入金利息	1,094	皆増	7,497	685.3	635	8.5
繰延勘定償却	62,515	127.8	100,550	160.8	123,792	123.1
患者外給食材料費	261	119.2	394	151.0	494	125.4
基金積立金	200,269	皆増	465	0.2	285	61.3
雑支出	99,626	93.2	108,037	108.4	124,144	114.9
賠償金	0	—	16,000	皆増	0	皆減
特別損失	6,860	110.9	8,417	122.7	8,219	97.6
過年度損益修正損	6,860	110.9	8,417	122.7	8,219	97.6
附帯事業費用	3,508	97.8	3,335	95.1	3,185	95.5
看護学校実習病院経費	3,508	97.8	3,335	95.1	3,185	95.5
旅費	1,046	79.5	483	46.2	305	63.1
消耗品費	1,658	109.7	1,547	93.3	1,557	100.6
印刷製本費	200	70.9	746	373.0	559	74.9
賃借料	140	100.0	120	85.7	0	皆減
図書費	180	109.1	367	203.9	619	168.7
負担金	284	163.2	72	25.4	145	201.4

2 資本的收入及び支出

単位:千円

	18年度		19年度		20年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
資本的收入	1,441,334	72.3	420,949	29.2	290,460	69.0
一般会計繰入金	188,434	159.4	291,949	154.9	290,460	99.5
企業債	152,900	80.1	129,000	84.4	0	皆減
寄附金	800,000	80.0	0	皆減	0	—
基金繰入金	300,000	皆増	0	皆減	0	—
国・県補助金	0	皆減	0	—	0	—
資本の支出	1,502,963	58.7	420,949	28.0	327,360	77.8
企業債償還金	282,651	79.7	291,949	103.3	300,312	102.9
退職給与費	153,076	皆増	129,000	84.3	0	皆減
病院増改築費	1,067,236	54.8	0	皆減	27,048	皆増
建物整備費	0	皆減	0	—	0	—
資産購入費	0	皆減	0	—	0	—
駐車場整備事業費	0	皆減	0	—	0	—

3 貸借対照表

単位:千円

	18年度		19年度		20年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	15,309,975	104.4	14,971,253	97.8	14,692,970	98.1
有形固定資産	15,309,975	104.4	14,971,253	97.8	14,692,970	98.1
土地	665,676	100.0	665,676	100.0	665,676	100.0
建物	13,064,174	113.4	13,064,174	100.0	13,089,934	100.2
建物減価償却累計額	△ 1,254,208	116.4	△ 1,461,565	116.5	△ 1,668,706	114.2
構築物	141,621	99.6	141,621	100.0	141,621	100.0
構築物減価償却累計額	△ 47,876	105.5	△ 50,730	106.0	△ 53,455	105.4
器械備品	4,698,242	96.8	4,696,194	100.0	4,665,418	99.3
器械備品減価償却累計額	△ 1,960,042	93.6	△ 2,085,695	106.4	△ 2,148,447	103.0
車両	14,548	100.0	14,548	100.0	14,548	100.0
車両減価償却累計額	△ 12,160	107.1	△ 12,970	106.7	△ 13,619	105.0
建設仮勘定	0	皆減	0	—	0	—
流動資産	1,851,590	104.8	1,870,472	101.0	1,892,877	101.2
現金預金	538,544	148.3	410,535	76.2	309,639	75.4
未収金	1,287,778	93.6	1,440,845	111.9	1,564,401	108.6
貯蔵品	25,268	89.4	19,092	75.6	18,837	98.7
繰延勘定	390,520	155.1	418,970	107.3	296,407	70.7
資産合計	17,552,085	105.2	17,260,695	98.3	16,882,254	97.8
固定負債	353,169	皆増	1,182,634	334.9	1,126,682	95.3
企業債	152,900	皆増	281,900	184.4	240,465	85.3
他会計借入金	0	—	700,000	皆増	700,000	100.0
引当金	200,269	皆増	200,734	100.2	186,217	92.8
流動負債	1,810,756	115.3	1,007,396	55.6	954,130	94.7
一時借入金	1,000,000	皆増	500,000	50.0	350,000	70.0
未払金	790,876	51.0	487,394	61.6	582,908	119.6
その他流動負債	19,880	102.6	20,002	100.6	21,222	106.1
資本金	9,846,618	100.8	9,554,669	97.0	9,332,692	97.7
自己資本金	2,396,160	102.6	2,396,160	100.0	2,433,060	101.5
借入資本金	7,450,458	100.2	7,158,509	96.1	6,899,632	96.4
剰余金	6,513,674	116.4	6,805,222	104.5	7,058,486	103.7
資本剰余金	6,476,774	117.8	6,768,322	104.5	7,058,486	104.3
減債積立金	28,800	31.9	28,800	100.0	0	0.0
建設改良積立金	8,100	100.0	8,100	100.0	0	0.0
欠損金	△ 972,132	396.3	△ 1,289,226	132.6	△ 1,589,736	123.3
当年度未処理欠損金	△ 972,132	396.3	△ 1,289,226	132.6	△ 1,589,736	123.3
負債・資本合計	17,552,085	105.2	17,260,695	98.3	16,882,254	97.8

4 診療行為別診療収入の状況

金額は千円単位

		平成18年度			平成19年度			平成20年度		
		金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
入院	基本診療料	1,462,797	55.1	99.2	1,602,284	54.4	109.5	1,742,103	51.5	108.7
	検査料	156,633	5.9	104.4	184,350	6.3	117.7	207,455	6.1	112.5
	画像診断	114,157	4.3	96.0	128,920	4.4	112.9	143,753	4.2	111.5
	投薬	69,025	2.6	102.7	87,282	3.0	126.4	86,981	2.6	99.7
	注射	207,075	7.8	111.2	246,412	8.4	119.0	277,218	8.2	112.5
	理学療法	66,370	2.5	122.2	65,416	2.2	98.6	90,202	2.7	137.9
	処置	106,192	4.0	95.5	132,923	4.5	125.2	160,317	4.7	120.6
	手術	411,495	15.5	106.1	441,462	15.0	107.3	591,112	17.5	133.9
	麻酔	61,060	2.3	168.7	58,242	2.0	95.4	85,062	2.5	146.0
	合計	2,654,804	100.0	102.7	2,947,291	100.0	111.0	3,384,202	100.0	114.8
	患者1人当り収入(円)	30,848	—	106.0	30,893	—	100.1	33,387	—	108.1
外来	基本診療料	271,375	18.3	93.7	268,841	17.3	99.1	288,083	17.5	107.2
	検査料	324,760	21.9	102.4	370,004	23.9	113.9	408,802	24.8	110.5
	画像診断	217,990	14.7	96.7	237,893	15.3	109.1	269,605	16.4	113.3
	投薬	29,658	2.0	17.9	20,085	1.3	67.7	24,426	1.5	121.6
	注射	209,092	14.1	92.8	201,782	13.0	96.5	208,455	12.6	103.3
	理学療法	7,415	0.5	65.8	6,753	0.4	91.1	9,329	0.6	138.1
	処置	290,653	19.6	112.9	312,649	20.2	107.6	311,163	18.9	99.5
	手術	35,590	2.4	110.6	32,063	2.1	90.1	32,973	2.0	102.8
	麻酔	8,898	0.6	110.6	10,543	0.7	118.5	8,141	0.5	77.2
	精神療法	28,176	1.9	116.7	27,347	1.8	97.1	26,563	1.6	97.1
	処方せん料	59,317	4.0	111.7	63,181	4.1	106.5	61,197	3.7	96.9
	合計	1,482,924	100.0	92.1	1,551,141	100.0	104.6	1,648,737	100.0	106.3
	患者1人当り収入(円)	8,136	—	91.8	8,396	—	103.2	9,084	—	108.2

Ⅲ 各部署の活動状況

1 診療部

(1) 診療各科

1 平成20年度目標と活動

病院機能評価の更新に当たり、当院の理念を基軸として、良質な医療の提供と健全な経営効率をテーマに、各科の主要疾患の診療マニュアルの整備、多職種参加の学術講演会、リハビリ検討会、症例検討会、救急症例検討会等を開催した。

実施日	演題名	所属・役職名	参加者
8月6日	金沢市立病院における経営改善プラン	金沢市立病院長	26名
	公立病院における経営の現状について	公立羽咋病院長	
10月14日	消化器癌診療の現況と将来展望	福井大学医学部 附属病院長	29名
	職場のメンタルヘルスをめぐって	福井大学医学部 神経科精神科教授	
2月6日	メタボリックシンドロームの病態と対策	金沢大学医学部 脂質研究講座特任教授	27名
	アルツハイマー病の診断と治療:新たな展開	金沢大学医学部 神経内科教授	
3月13日	冠動脈インターベンションと積極的内科治療の意義	金沢大学医学部 循環器内科教授	26名
	虚血性心疾患と戦う ～臨床と基礎から～	金沢大学医学部 循環器内科助教	

2 平成20年度評価

病院機能評価の認定が更新され、各科主要疾患の診療マニュアルの整備、多職種参加の学術講演会、リハビリ検討会、症例検討会、救急症例検討会等を開催したことで、診療内容の標準化、安全性の確保につながり、所期の目的を達成することができた。

3 平成21年度目標

DPCの導入に向けて、①診療内容の標準化、②安全性を確保したうえでの省力化、③医療資源の積極的利活用を行う。

また、がん診療連携拠点病院に指定されるよう院内がん登録や緩和ケアの標準化、化学療法のマニュアル化を推進し、更なる良質な医療の提供と健全な経営効率を図る。

(2) 医療安全管理室

1 平成20年度目標と活動

「全職員に医療安全活動を浸透させ、医療安全文化を創出する」を目標に掲げ、

下記の活動を行った。

① <講習会等の実施>

実施日	演題名等	所属・役職名等	参加者
6月5日	医薬品安全講習会 「麻薬について～あなたならどうする～」	市立敦賀病院薬剤室長	167名
	医療紛争防止のために	成田・長谷川法律事務所弁護士	
8月18日	リスクマネージャを対象とした院内研修	福井総合病院麻酔科部長	13名
9月26日	医療安全に係る取組みの発表	各部署職員	121名
10月7日	職員の精神衛生について	(株)カイトック専務取締役	37名
3月5日	医薬品安全講習会 「処方せんの正しい書き方」	市立敦賀病院薬剤室長	144名
	医療安全に係る取組みの発表	各部署職員	

② 緊急時連絡訓練

平成20年度はコードブルーの発信が4回あったが、いずれも医師、看護師を中心に多職種の職員が駆けつけた。

2 平成20年度評価

医療安全活動に関する認識は浸透されたが、今後、更なる医療安全活動の推進に努めたい。

3 平成21年度目標

全職員に医療安全活動の更なる推進

① 委員会

- ・ 院内巡視監査を実施（月1回）
- ・ 充実した「医療安全ニュース」の発行（月1回）
- ・ 「埋めよう、患者とあなたの溝-医療トラブル時の初期対応マニュアル-」を浸透
- ・ インシデント管理システムを導入

② リスクマネジメント

- ・ リスクマネジャーを中心に危険予知トレーニングを実施
- ・ リスクマネジャーを中心に根本原因分析を用いた改善策の作成を推進
- ・ 看護部以外のインシデント、アクシデントレポート提出率の向上
- ・ 「医療安全マニュアル」の更なる周知
- ・ 医療事故情報の収集と院内への伝達
- ・ リスクマネジャーを中心に「埋めよう、患者とあなたの溝-医療トラブル時の初期対応マニュアル-」を活用し、各部署で医療トラブル時の初期対応法を習得
- ・ リスクマネジメントから見た予期しない死亡例のカルテレビューの実施

③ 院内医療安全大会

医療安全に係る取組みの発表と討論会（年2回）

④ 講演会

<全員対象>

- ・ 危険予知トレーニングについて
- ・ 薬剤師から見た医療安全について
- ・ 職員の精神衛生について

<リスクマネジャー等対象>

- ・ メディエーション研修（年2回）

⑤ 緊急時連絡訓練

⑥ 市民への啓蒙活動

患者・家族の安全対策10か条、20か条をホームページ、RCN（嶺南ケーブルネットワーク）、広報つるがなどを活用し理解を得る。

2 医療技術部

(1) 検査室

1 平成20年度目標と活動

① 検査室業務改善部会の立上げ

検査室リスクマネジャーと各部門のスタッフで構成し、検査室で発生したインシデントやトラブルなどの改善策、業務の効率化について検討し、毎月1回開かれる検査室ミーティングでスタッフ全員に提案した。

② 臨床検査技師会臨床検査データ標準化事業への参加

地域医療連携や特定健康診査においては、データ標準化が要求されているが、(社)日本臨床検査技師会では平成19年度より3ヵ年計画で、各都道府県に3つの基幹施設を設置し「臨床検査データ標準化事業」に取り組んでいる。福井県臨床検査技師会から参加要請があり、これを受託した。

③ 看護業務支援

従来は、凍結血漿（FFP）は凍結のまま検査室から払い出され、各科病棟で融解していたが、融解温度・衛生面に問題があることから、検査室にて融解し払い出した。

また、自己血採取装置の導入に伴い、採血現場まで検査技師が出向き、採取に係る針の穿刺を除いて採取操作を行った。

さらに、バーコードの貼違いによる患者間違い、採血管間違いによる採血の抜き直しなどの防止と夜勤看護師の業務軽減のために、病棟翌日採血用採血管への患者ごとのバーコード貼付けと袋詰めを実施した。

2 平成20年度評価

上記活動が実践されたことにより、当初の目的が達成されたが、次年度に向け、更なる質の向上を目指し取り組んでいきたい。

3 平成21年度目標

- ① 敦賀地区の血液供給業者の業務辞退に伴い、敦賀・美浜・旧三方地区における輸血用血液製剤供給業務を実施する。
- ② 耳鼻いんこう科聴力検査について検査技師等を含めた実施の円滑化に努める。

(2) 放射線室

1 平成20年度目標と活動

- ① 全国自治体病院学会への参加や発表の機会を得ることができた。
 - ・ 放射線分科会シンポジウム「福井県における被ばくネットワーク」
山崎 巖
 - ・ MRI分科会「肩疾患における Radial Scan の有用性」
田泉 智明
- ② 病院機能評価を機に、機器の日常点検の業務化を図り、マニュアル等の見直しや整備を行った。
- ③ 乳癌の個別検診機関として登録し、毎月第3土曜日に「マンモグラフィー検診」を行った。今後、更なる受診率のアップにつなげたい。

2 平成20年度評価

上記により、目的はほぼ達成できたが、平成21年1月からの電子カルテ開始により、今後は、業務の電子化やカルテとの連携を強化することにより、更なる患者サービスの向上を図りたい。

3 平成21年度目標

放射線医用画像のデジタル化及び画像情報のモニタ配信に向け準備し、電子カルテとの連携で、より迅速な画像情報の提供に努め、もって患者サービスの向上を図る。

(3) リハビリテーション室

1 平成20年度目標と活動

- ① 患者本人や家族側の事情で「リハビリテーション総合計画評価料」を算定できなかったケースについて、病棟等の協力により、リハビリ実施時間外での説明や署名を実施する工夫を行い、前年度より大幅な当該評価料の取得増につながった。
- ② 脳卒中や脊髄疾患患者を中心に重心動揺計を用いて平衡機能検査を実施（「平衡機能検査料」の算定）した。その結果を基に効果的なバランス練習を実施し、また検査結果を患者に説明することで、転倒予防にもつながった。
- ③ 平成18年から嚥下機能評価法としてビデオ嚥下造影を取り入れ、本年度は前年度に比べて倍増した。
(平成18年1名、平成19年11名、平成20年27名)

- ④ 整形外科疾患に対して、BIODEXを用いて定量的な筋力測定を行った。その結果を基に効果的な筋力トレーニングを実施した。

2 平成20年度評価

目標に向かって取り組んだ結果、患者サービスの向上や増収につながった。今後も、急性期リハビリを中心に、更なる充実を図っていきたい。

3 平成21年度目標

- ① 「脳血管疾患等リハビリテーション料（I）」を取得し、脳血管疾患患者を中心に急性期リハビリの充実を図る。
- ② 嚥下機能評価法としてビデオ嚥下造影検査に加え、対象患者を広げるためにビデオ内視鏡検査も実施する。

(4) 臨床工学技術室

1 平成20年度目標と活動

- ① 透析センターにおける業務を円滑に実施した。
- ② 急性血液浄化における対応を円滑に行った。
- ③ 院内全輸液ポンプを点検整備した。
- ④ 人工透析装置のオーバーホールを行った。
- ⑤ 人工呼吸器の中央管理化を実施した。
- ⑥ 手術室業務として術中回収式自己血輸血（以下「オーソパット」という。）を円滑に実施した。
- ⑦ 高気圧酸素療法を積極的に活用した。
- ⑧ 看護師を対象にサーボベンチレーターに係る初級取扱講習会を実施した。
- ⑨ 輸液ポンプ取扱説明会を実施した。
- ⑩ 看護師を対象に急性浄化・オーソパットに関する講習を実施した。

2 平成20年度評価

上記活動について円滑に遂行したことにより、ほぼ目的は達成できたが、今後、効率的な医療機器の運用に向け、新たな目標を掲げ、実践していきたい。

3 平成21年度目標

- ① 輸液ポンプ、シリンジポンプ及び経腸栄養ポンプの中央管理化を行う。
- ② 除細動器及びAEDの日常点検を行い、管理強化を図る。
- ③ 人工呼吸器動作時のラウンドを実施する。

(5) 栄養管理室

1 平成20年度目標と活動

- ① 食品衛生自主管理プログラム（福井県版HACCP認証制度）に基づく衛生管理の実施
職員に対し食品衛生自主管理プログラム及び大量調理施設マニュアルに基づき衛生管理を徹底させ、食中毒等の発生を抑えた。
- ② 入院患者への栄養スクリーニング・栄養アセスメント対応の実施
NST対象患者に、栄養スクリーニング・栄養アセスメント対応を行い、患者個人に対して栄養管理を行った。
- ③ 献立及び選択メニュー（週3回）の充実
入院患者より希望の多かった選択メニュー（昼・夕食）を、週1回から週3回に充実し、患者満足につなげた。

2 平成20年度評価

衛生面の強化、選択メニューの増加等により、業務の質や患者サービスの向上につながり、目標は達成できた。

今後は、平成22年度に予定している給食業務の全面委託化に向け、質を維持しながら、スムーズに移行できるよう準備を進めていきたい。

3 平成21年度目標

- ① 食品衛生自主管理プログラムに基づく衛生管理の継続実施
- ② 入院患者への栄養スクリーニング・栄養アセスメント対応の充実
- ③ 献立及び選択メニュー（週3回）の充実
- ④ 平成22年度給食業務全面委託の準備

3 薬剤部

(1) 薬剤室

1 平成20年度目標と活動

- ① 医薬品情報管理業務
 - ・ 医薬品要覧の充実化を図った。
 - ・ ホームページを、見やすく、また分かりやすく作成・修正した。
 - ・ 病棟・外来配置薬剤管理システムを構築し、管理の円滑化を行った。
- ② 薬事委員会
 - ・ 薬剤室ニュースをオーダーリング端末から参照可能とし、採用中止情報を院内共有し、多くの職員への周知を図った。
 - ・ 速効性オピオイドの採用による疼痛緩和用薬剤の使用環境を整備した。
- ③ 化学療法委員会
電子カルテのレジメン機能を活用し、癌化学療法治療計画の院内共有と安全実施を実現した。
- ④ 教育実習業務

認定実務実習指導薬剤師の資格（1名）を取得した。

⑤ 緩和ケア委員会

WHO方式の癌疼痛治療法に準拠した採用薬使用方法（ラダー）を作成し、オーダーリング端末から参照可能とした。

⑥ 院内感染対策委員会・ICT

ICT回診への参加、抗菌薬及び消毒薬の適正使用に取り組んだ。その結果、高齢者への不適切使用の防止などの効果が出た。

⑦ 地域連携

福井県病院薬剤師会業務委員会として、平成20年度福井県薬剤師会・病院薬剤師会合同研修会にて発表した。「院外処方せんの疑義照会に関する現状」として問題提起を行い、調剤薬局の理解と協力を得た。

⑧ 発注・薬剤管理業務

- ・ 病棟・外来配置薬の点検頻度を上げ、期限切れ薬剤の回収、過剰在庫の回収を実施した。
- ・ 毎月の棚卸により、在庫量を把握し、不良在庫の解消に努めた。

⑨ 医薬品安全管理業務

- ・ 医薬品安全研修会の開催を通じ、安全意識の向上に努めた。
- ・ 医療安全大会において、薬剤室の過誤防止への取組みについて、事例報告をした。
- ・ 調剤過誤の監査時に発見した内容を集計・分析し、注意を促した。
- ・ 注射薬配合変化表の作成など、安全使用情報を提供した。

⑩ 部会その他

- ・ 災害医療部会において災害研修会・訓練を開催し、災害対策マニュアルの改訂に携わった。
- ・ NST勉強会において簡易懸濁法の説明を行い、各病棟に手技知識の普及を行った。

2 平成20年度評価

目標を掲げ、実践したことにより、診療内容の向上に貢献し、多くの成果をあげることができたが、今後更に患者サービスや資質の向上に努めていきたい。

3 平成21年度目標

① 医薬品情報管理業務

- ・ 医薬品要覧の電子化
- ・ 医薬品情報管理業務の効率化
- ・ ホームページの充実
- ・ 病棟担当薬剤師による情報提供の強化

② 薬事委員会

- ・ 採用薬剤の見直しと削減
- ・ 薬剤採用規程の見直し

- ③ 化学療法委員会
 - ・ 内服抗癌剤による化学療法治療計画の院内共有化
 - ・ 癌化学療法レジメンの見直しと追加
- ④ 教育実習業務
 - 薬学生実務実習の受入体制の構築
- ⑤ 緩和ケア委員会
 - P C A 機能付鎮痛薬持続注入システムの導入
- ⑥ 院内感染対策委員会
 - ・ 抗菌薬に係る使用届出書の提出率を100%にする。
 - ・ 抗菌薬使用状況及び消毒薬（一部）の使用状況を電子カルテシステムに掲載する。
- ⑦ 薬剤管理業務
 - 薬剤室以外(病棟・外来等)の在庫点検に係るルールの遵守と業務の強化

4 看護部

1 平成20年度目標と活動

- ① 職員一丸となり、機能評価を視野に入れた業務標準化に取り組んだ。
 - ・ 現在の基準、マニュアルの見直し
 - ・ 基準、マニュアル作成と実践
- ② 相手（人）に対し尊厳を持ち、心ある態度で接した。
- ③ 看護体制（業務体制）の改善に取り組んだ。
- ④ 教育制度を活用した。

2 平成20年度評価

上記目標を掲げ活動してきたが、大きな実績としては平成20年7月の病院機能評価の受審が挙げられる。各部署において全ての基準を見直し浸透させたことは大きかった。また、視察・研修等受審のために一丸となることができた。さらに夜勤等の看護体制についてもいろいろと検討し、改善することができた。

3 平成21年度目標

- ① 相手（人）に対し、心ある態度で接します。
- ② 質的成果を目指した業務改善に取り組めます。
- ③ 個々の目標を明確にして実践評価を行うことを基本に、教育制度を活用します。
- ④ N A N D A - N O C ・ N I C（看護診断システム）を活用します。
- ⑤ D P C 導入に向けて活動します。

上記5項目である。平成20年度より継続する目標もあるが、特にD P C 導入については、看護部として最大限力をいれる必要がある。

また、看護職個々の質的向上が不可欠であり、④の看護診断の使用や教育制度の

活用は、それにつながるものである。看護職個々が、自己の役割等を再認識し、発揮することが重要である。目標をより具体的な方策で必ず実践し、効果的・効率的に活動・運営していく。

5 事務局

(1) 総務企画課

1 平成20年度目標と活動

① 病院機能評価の更新審査について

病院機能評価 Ver.5 を受審した。その講評で地域の中核病院として地域活動への取組みや医療安全への取組みなどについては高く評価された一方、委員会の活動については充実等が望まれる結果となった。

② 中期経営計画の策定

昨今の医療を取り巻く環境は、少子高齢化の急速な進展や生活習慣病の増加など、大きく変化するなか、医療技術の進歩や患者・市民の意識変化、複雑・高度・多様化する医療ニーズなどにより、より質の高い効率的な医療サービスの提供が求められるようになってきた。

また、国における医療制度改革の流れなど病院の経営環境も大きく変化してきた。

これを受けて、当院では公立病院として担う役割を明確化し、病院経営の健全化を着実に推進し、もって地域医療の確保を図るため、平成20年12月に「市立敦賀病院中期経営計画」を策定した。

③ 市民公開講座の開催

実施日	演題名	所属・役職名	参加者
2月22日	生活習慣病としてのがん	福井大学医学部 附属病院長	200名
	心の健康を保つために	福井大学医学部 神経科精神科教授	

2 平成20年度評価

今回の認定更新審査により、新たに当院の課題として浮き彫りになった領域、また自信と誇りを持てた領域があった。今後は医療従事者個々の意識改革を行い、日夜努力を重ねることで、当院の理念である「信頼され、温もりのある医療」を目指す組織の推進を図るとともに、中期経営計画を基軸として、更なる健全な経営効率化に向け努めていきたい。

3 平成21年度目標

救急、高度、災害等医療の充実など地域の医療ニーズに対応できるよう機能の充実を図りつつ、紹介率の向上などにより入院診療中心の診療体制への移行を推進し、

もって地域医療連携の中心的役割を担うとともに急性期病院としての確立を目指す。

① 取り組むべき課題（経営課題）

- ・ 人材の確保・育成
- ・ 医療の質の向上
- ・ 経営基盤の確立
- ・ 患者サービスの向上
- ・ 救急医療、高度医療への対応
- ・ 地域医療機関との連携など

② 平成21年度数値目標（財務・医療機能）

- ・ 経常収支比率・・・・・・・・・・94.2%
- ・ 医業収支比率・・・・・・・・・・90.0%
- ・ 職員給与費対医業収益比率・・・56.4%

(2) 医療サービス課

1 平成20年度目標と活動

① 電子カルテの導入

電子カルテシステムの導入に伴い、生理検査、リハビリ、産婦人科エコーシステムとの連携を図った。従来の紙カルテに比べ、文字が見やすくなったことや診療情報の一元的管理により診療録としての記載内容が充実し、DPC制度に対応した。

② 診療報酬業務のオンライン化に向けた取組み

平成21年4月診療分の診療報酬請求より、紙レセプト請求からオンライン請求に切り替えるための準備を行った。

③ 未収金回収業務の外部委託

未収金回収業務を外部に委託し、6ヶ月間で依頼金額の10%を回収できた。また、居所不明者、自己破産、相続放棄などの調査結果も得ることができた。

2 平成20年度評価

オンライン化によって、紙レセプト運搬費用と紙の消費量の削減が期待できる結果となり、今後は電子カルテシステムを活かした業務の見直しを行い、人件費や委託料の削減を目指していきたい。

また、未収金の回収については、大きな成果が上がっており、引き続き回収強化に向け取り組んでいきたい。

3 平成21年度目標

① DPC準備病院への参加

2年後のDPCの導入に向けて、電子カルテシステムなどを活用しながら必要なデータを正確に作成・収集する。

また、DPC委員会の設置運営、クリティカルパスの整備を行い、適切なコーディングを図る。

② 紙カルテの廃止・事務室の移転

電子カルテの導入に伴い、参照する機会が減った紙カルテを地下倉庫へ移すとともに医療サービス課の事務室を1階に移転させ、患者サービスの向上を目指す。

(3) 地域医療連携室

1 平成20年度目標と活動

① 地域医療機関（開業医等）との連携促進

- ・ 紹介患者の円滑な受入れの実施
- ・ 各種研修会等の開催

実施日	演題名等	所属・役職名	参加者
5月26日	地域公開医療講座 「アナフィラキシーショックについて」	福井総合病院麻酔科部長	167名
9月24日	地域医療連携カンファレンス 「胸部異常陰影の症例 2例」	市立敦賀病院内科部長・医長	37名
2月17日	地域公開医療講座 「在宅での呼吸管理について ～気管切開患者のケアや肺炎予防など～」	市立敦賀病院診療部長	74名

- ・ 紹介患者の円滑な受入れの実施
- ・ 連携取組みの周知
見やすく、分かりやすいパンフレット（「きらめき」「かかりつけ医ガイド」）を作成した。

② 退院支援等の促進

受診及び受療相談並びに退院、福祉及び在宅相談等を行った。

③ 紹介率及び逆紹介率の向上を促進した。

④ 開放型病床の利用促進を図った。

⑤ 相談業務の充実を図った。

2 平成20年度評価

上記の活動を行い、下記の結果を得ることができた。

		平成19年度	平成20年度	増減
③ 関 係	紹介率	25.8%	28.7%	2.9%
	逆紹介率	17.9%	30.3%	12.4%
④ 関 係	利用延人数	716人	871人	155人
	利用率	39.1%	47.7%	8.6%
⑤ 関 係	相談実人数	1,997人	2,601人	604人
	相談延件数	6,867件	5,895件	△972件

3 平成21年度目標

- ① 地域医療支援病院の指定を目指し、紹介・逆紹介・開放型病床の利用率を向上させる。
(紹介率 40%、逆紹介率40%、開放型病床利用率50%)
- ② 長期入院患者が多い(毎月50人程度)ので、急性期病院としての役割を十分果たすために、当該患者数の減少(毎月40人程度)に努める。

IV 業務の概要

1 患者の状況

(1) 入院・外来別患者数

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
入院	患者数(人)	86,060	95,403	101,363
	対前年度比(%)	96.8	110.9	106.2
	開院日(日)	365	366	365
	一日平均(人)	235.8	260.7	277.7
	病床利用率(%)	79.7	78.5	83.6
	平均在院日数(日)	17.5	20.8	21.2
外来	患者数(人)	182,269	184,741	181,506
	対前年度比(%)	100.4	101.4	98.2
	開院日(日)	245	245	243
	一日平均(人)	744.0	754.0	746.9
合計	患者数(人)	268,329	280,144	282,869
	対前年度比(%)	99.2	104.4	101.0

(2) 患者数の推移

① 入院患者数

	病床数				患者延数(人)	対前年度比(%)	1日平均患者数(人)
	一般	感染	ドック	無菌			
平成15年度	342	2	6		108,986	96.8	297.8
平成16年度	342	2	6		105,881	97.2	290.1
平成17年度	342	2	6		88,872	83.9	243.5
平成18年度	287	2	6	1	86,060	96.8	235.8
平成19年度	323	2	6	1	95,403	110.9	260.7
平成20年度	323	2	6	1	101,363	106.2	277.7

② 外来患者数

	患者延数(人)	対前年度比(%)	1日平均患者数(人)
平成15年度	229,231	94.1	931.8
平成16年度	211,239	92.2	869.3
平成17年度	181,609	86.0	744.3
平成18年度	182,269	100.4	744.0
平成19年度	184,741	101.4	754.0
平成20年度	181,506	98.2	746.9

(3) 診療科別患者数

	入院				外来			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	対前年度比	平成18年度	平成19年度	平成20年度	対前年度比
内科	13,802	20,766	26,890	129.5	32,758	34,040	34,098	100.2
神経内科	681	487	427	87.7	1,532	1,740	1,631	93.7
消化器科	4,349	6,085	6,340	104.2	8,310	7,390	8,287	112.1
循環器科	7,604	7,715	5,763	74.7	12,532	13,558	13,688	101.0
小児科	3,722	2,641	3,496	132.4	10,488	9,566	9,643	100.8
外科	14,456	18,170	16,087	88.5	11,697	12,006	11,381	94.8
整形外科	14,650	12,798	16,631	129.9	24,656	23,920	21,864	91.4
脳神経外科	10,402	10,626	10,535	99.1	9,394	9,500	9,077	95.5
皮膚科	1,275	1,459	593	40.6	13,088	13,184	12,486	94.7
泌尿器科	5,438	5,544	4,786	86.3	10,896	12,209	12,180	99.8
産婦人科	7,973	7,556	7,785	103.0	10,909	9,962	9,310	93.5
眼科	402	293	380	129.7	7,570	6,785	6,575	96.9
耳鼻いんこう科	826	742	1,249	168.3	5,591	5,461	5,473	100.2
放射線科					790	886	1,030	116.3
神経科精神科					7,891	8,147	7,765	95.3
麻酔科	158	35	56	160.0	2,919	3,263	2,499	76.6
リハビリテーション科					4,934	5,886	5,899	100.2
歯科口腔外科	322	486	345	71.0	6,314	7,238	8,620	119.1
合計	86,060	95,403	101,363	106.2	182,269	184,741	181,506	98.2

(4) 市町村別患者数

		平成18年度						平成19年度						平成20年度					
		外来		入院		合計		外来		入院		合計		外来		入院		合計	
		実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率
県内	敦賀市	68,857	81.3	3,118	78.5	71,975	81.2	71,899	81.8	2,866	77.1	74,765	81.6	72,235	81.6	2,978	76.9	75,213	81.4
	美浜町	8,168	9.6	426	10.7	8,594	9.7	8,263	9.4	364	9.8	8,627	9.4	8,282	9.4	374	9.7	8,656	9.4
	若狭町	4,304	5.1	223	5.6	4,527	5.1	4,405	5.0	221	5.9	4,626	5.0	4,457	5.0	235	6.1	4,692	5.1
	その他	1,251	1.5	58	1.5	1,309	1.5	1,147	1.3	78	2.1	1,225	1.3	1,201	1.4	70	1.8	1,271	1.4
県外		2,131	2.5	149	3.7	2,280	2.6	2,173	2.5	189	5.1	2,362	2.6	2,311	2.6	215	5.6	2,526	2.7
合計		84,711	100.0	3,974	100.0	88,685	100.0	87,887	100.0	3,718	100.0	91,605	100.0	88,486	100.0	3,872	100.0	92,358	100.0

(5) 月別患者数

平成20年度

入院

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合
内 科	2,029	2,094	2,155	2,299	2,257	2,148	2,237	2,321	2,394	2,600	2,218	2,138	26,890	73.7	26.5
神 経 内 科	90	50	30	48	62	42	31	30	31	13	0	0	427	1.2	0.4
消 化 器 科	373	511	634	579	513	459	483	515	518	576	506	673	6,340	17.4	6.3
循 環 器 科	478	566	500	495	523	455	533	473	328	465	445	502	5,763	15.8	5.7
小 児 科	307	251	214	305	303	271	289	250	341	264	299	402	3,496	9.6	3.4
外 科	1,257	1,362	1,250	1,346	1,301	1,433	1,574	1,501	1,442	1,274	1,098	1,249	16,087	44.1	15.9
整 形 外 科	1,376	1,468	1,225	1,431	1,440	1,542	1,532	1,414	1,228	1,306	1,212	1,457	16,631	45.6	16.4
脳 神 経 外 科	764	925	771	833	903	791	948	840	852	1,012	896	1,000	10,535	28.9	10.4
皮 膚 科	49	41	61	17	82	92	64	3	23	0	29	132	593	1.6	0.6
泌 尿 器 科	289	404	433	300	382	449	437	311	558	446	457	320	4,786	13.1	4.7
産 婦 人 科	600	657	767	745	763	580	651	604	665	565	521	667	7,785	21.3	7.7
眼 科	36	27	23	36	45	47	28	24	22	33	39	20	380	1.0	0.4
耳 鼻 い ん こ う 科	65	92	51	151	195	120	119	167	97	80	72	40	1,249	3.4	1.2
放 射 線 科															
神 経 科 精 神 科															
麻 酔 科	6	0	10	2	0	0	0	2	0	6	24	6	56	0.2	0.1
リハビリテーション科															
歯 科 口 腔 外 科	24	17	42	9	38	8	1	20	78	40	25	43	345	0.9	0.3
合 計	7,743	8,465	8,166	8,596	8,807	8,437	8,927	8,475	8,577	8,680	7,841	8,649	101,363	277.7	100.0

外来

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合
内 科	2,905	2,989	2,864	3,116	2,987	2,983	3,168	2,876	3,046	3,076	1,966	2,122	34,098	140.3	18.8
神 経 内 科	121	163	132	127	136	144	185	132	139	113	118	121	1,631	6.7	0.9
消 化 器 科	644	666	719	733	661	753	742	613	722	653	649	732	8,287	34.1	4.6
循 環 器 科	1,236	1,146	1,199	1,157	1,173	1,163	1,261	1,042	1,130	1,093	1,000	1,088	13,688	56.3	7.5
小 児 科	823	763	779	844	774	594	739	718	1,018	927	766	898	9,643	39.7	5.3
外 科	929	887	930	1,023	928	993	1,076	912	967	933	795	1,008	11,381	46.8	6.3
整 形 外 科	1,816	1,986	1,919	2,115	1,982	1,994	2,075	1,729	1,759	1,553	1,373	1,563	21,864	90.0	12.0
脳 神 経 外 科	744	817	743	807	753	760	807	757	780	734	649	726	9,077	37.4	5.0
皮 膚 科	1,119	1,117	1,214	1,220	1,185	1,039	1,059	934	1,011	821	712	1,055	12,486	51.4	6.9
泌 尿 器 科	1,051	997	945	1,095	1,107	1,051	1,083	947	1,086	927	944	947	12,180	50.1	6.7
産 婦 人 科	910	807	829	869	726	811	951	812	871	508	583	633	9,310	38.3	5.1
眼 科	587	531	574	647	607	578	585	545	559	449	423	490	6,575	27.1	3.6
耳 鼻 い ん こ う 科	417	487	474	514	458	429	515	379	474	403	407	516	5,473	22.5	3.0
放 射 線 科	85	89	95	74	82	67	80	68	69	103	105	113	1,030	4.2	0.6
神 経 科 精 神 科	691	668	626	716	674	681	769	622	646	582	546	544	7,765	32.0	4.3
麻 酔 科	279	205	166	202	225	205	235	205	216	192	165	204	2,499	10.3	1.4
リハビリテーション科	457	461	491	522	510	535	594	582	550	369	382	446	5,899	24.3	3.3
歯 科 口 腔 外 科	759	763	760	738	673	656	792	715	702	630	686	746	8,620	35.5	4.7
合 計	15,573	15,542	15,459	16,519	15,641	15,436	16,716	14,588	15,745	14,066	12,269	13,952	181,506	746.9	100.0

(6) 救急患者の取扱状況

平成18年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	271	283	228	274	312	206	279	308	418	302	320	323	3,524
神 経 内 科	7	4	4	0	2	4	3	4	7	9	0	3	47
消 化 器 科	16	25	19	21	7	16	12	10	15	8	10	6	165
循 環 器 科	52	47	42	38	42	30	28	45	43	44	33	41	485
小 児 科	196	192	137	144	181	122	140	144	210	158	223	255	2,102
外 科	45	56	64	57	72	61	46	59	58	66	42	44	670
整 形 外 科	128	141	145	170	133	136	120	114	141	151	88	127	1,594
脳 神 経 外 科	88	121	111	109	92	96	108	108	94	99	81	97	1,204
皮 膚 科	33	42	56	59	76	50	55	44	34	34	24	31	538
泌 尿 器 科	38	18	36	38	38	22	22	22	28	24	14	21	321
産 婦 人 科	40	62	37	36	47	29	27	38	37	40	21	27	441
眼 科	23	34	24	20	29	27	27	21	26	20	17	16	284
耳 鼻 い ん こ う 科	28	49	29	30	31	29	25	20	25	36	31	32	365
放 射 線 科													0
神 経 科 精 神 科	13	11	5	11	7	12	13	6	8	13	18	5	122
麻 酔 科	2	2	0	0	1	2	1	9	3	1	1	1	23
リハビリテーション科													0
歯 科 口 腔 外 科	12	20	15	21	15	11	14	5	18	6	16	9	162
合 計	992	1,107	952	1,028	1,085	853	920	957	1,165	1,011	939	1,038	12,047
入院患者数(再掲)	129	129	114	119	119	116	130	154	126	146	101	116	1,499
救 急 車 台 数	149	155	151	169	161	123	172	159	155	160	147	154	1,855

平成19年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	281	308	237	250	338	234	266	251	345	375	263	275	3,423
神 経 内 科	2	2	4	2	5	3	0	2	1	4	3	0	28
消 化 器 科	15	6	9	8	15	14	6	10	9	15	10	7	124
循 環 器 科	55	36	35	31	28	45	24	37	40	52	37	47	467
小 児 科	179	151	140	170	142	96	104	101	174	181	120	144	1,702
外 科	53	54	60	68	60	68	56	47	65	47	45	55	678
整 形 外 科	132	170	141	164	200	124	150	105	125	98	107	110	1,626
脳 神 経 外 科	98	87	77	99	85	100	98	96	100	92	75	101	1,108
皮 膚 科	35	67	60	79	74	61	52	40	46	46	15	34	609
泌 尿 器 科	23	32	27	31	40	34	26	29	31	24	32	31	360
産 婦 人 科	39	32	33	35	42	27	27	14	34	34	33	21	371
眼 科	22	26	23	27	13	23	23	16	23	10	9	10	225
耳 鼻 い ん こ う 科	32	26	33	31	36	39	22	21	38	26	18	23	345
放 射 線 科													0
神 経 科 精 神 科	8	6	5	5	4	2	11	6	6	2	6	8	69
麻 酔 科	0	0	2	0	2	2	0	0	0	1	1	1	9
リハビリテーション科													0
歯 科 口 腔 外 科	15	9	27	14	11	11	14	3	7	13	7	15	146
合 計	989	1,012	913	1,014	1,095	883	879	778	1,044	1,020	781	882	11,290
入院患者数(再掲)	155	119	132	123	142	142	96	105	168	146	128	119	1,575
救 急 車 台 数	180	165	156	159	204	156	138	151	196	184	169	159	2,017

平成20年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	239	273	252	300	328	269	268	236	311	513	311	315	3,615
神 経 内 科	0	2	0	2	1	1	2	5	3	0	1	2	19
消 化 器 科	8	9	9	16	7	19	8	7	15	8	4	4	114
循 環 器 科	32	44	38	26	50	27	38	50	39	50	23	46	463
小 児 科	131	145	146	164	127	93	88	108	199	189	152	149	1,691
外 科	65	39	52	69	57	56	40	40	33	37	25	44	557
整 形 外 科	115	130	119	169	165	141	122	147	131	89	78	82	1,488
脳 神 経 外 科	76	92	92	79	91	75	104	106	103	67	73	74	1,032
皮 膚 科	24	40	54	65	82	61	43	36	48	25	21	32	531
泌 尿 器 科	29	27	26	39	39	26	29	26	20	29	22	20	332
産 婦 人 科	33	30	42	34	30	21	38	30	32	27	26	19	362
眼 科	12	17	11	17	28	18	10	19	25	13	5	15	190
耳 鼻 い ん こ う 科	24	39	35	30	30	30	48	31	33	25	23	31	379
放 射 線 科													0
神 経 科 精 神 科	2	2	3	2	9	0	4	5	2	1	1	3	34
麻 酔 科	4	1	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	12
リハビリテーション科													0
歯 科 口 腔 外 科	13	7	6	10	13	8	11	11	14	9	4	12	118
合 計	807	897	888	1,025	1,057	845	854	857	1,008	1,082	769	848	10,937
入院患者数(再掲)	123	142	141	128	126	129	108	105	134	118	101	123	1,478
救 急 車 台 数	136	148	156	185	168	145	159	160	168	141	121	151	1,838

(7)患者搬送の状況

(順不同)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度		
				病院救急車 利 用 数	周産期医療 関係搬送数
市 内	14	3	11	7	0
県 内	62	62	67	23	10
石川県	2	5	2	0	0
岐阜県	1	0	2	1	0
愛知県	2	0	2	2	0
大阪府	5	2	0	0	0
京都府	3	1	2	0	0
滋賀県	1	0	1	0	0
岡山県	0	0	1	1	0
静岡県	0	1	0	0	0
合計	90	74	88	34	10

平成20年度より、病院救急車利用数及び母体搬送等周産期医療関係の搬送数を掲載。

2 総合健診の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18年度	1日ドック	7	13	44	39	69	50	33	44	30	20	12	18	379
	2日ドック	1	4	1	8	7	8	8	6	3	3	4	2	55
	政管一般	21	72	142	113	92	99	115	87	36	41	67	37	922
	政管ドック	1	3	6	4	4	3	2	4	1	1	2	2	33
	2次検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金 額	798,356	2,462,806	5,024,841	4,913,662	5,827,160	5,096,622	4,451,510	4,441,526	2,677,480	2,095,486	2,496,302	1,966,516	42,252,267
19年度	1日ドック	17	25	29	45	65	43	38	32	55	34	7	27	417
	2日ドック	1	5	5	7	4	5	10	6	5	3	2	3	56
	政管一般	11	73	158	116	104	106	120	108	56	32	94	43	1,021
	政管ドック	1	3	4	4	3	7	4	5	2	3	4	0	40
	2次検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金 額	1,043,038	2,924,346	4,770,942	5,200,694	5,664,007	4,557,597	5,141,218	4,355,303	4,149,676	2,564,608	2,426,194	2,476,640	45,274,263
20年度	1日ドック	18	17	21	43	69	46	48	34	66	26	22	22	432
	2日ドック	0	3	2	10	8	7	9	10	5	4	2	3	63
	政管一般	11	66	150	126	93	118	129	84	68	36	87	55	1,023
	政管ドック	2	0	5	2	0	3	4	6	8	1	3	2	36
	2次検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金 額	1,075,204	2,368,125	4,103,592	5,437,090	5,684,219	4,997,943	5,511,020	4,115,638	4,928,315	2,433,803	3,074,667	2,483,672	46,213,288

3 中央手術室業務の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
内科 神経内科 消化器科 循環器科	25	16	29
小児科	0	0	0
外科	292	337	406
整形外科	319	265	404
脳神経外科	39	41	57
皮膚科	7	12	3
泌尿器科	97	126	130
産婦人科	112	110	108
眼科	202	152	226
耳鼻いんこう科	14	18	13
放射線科	0	0	0
神経科精神科	0	0	0
麻酔科	0	3	0
リハビリテーション科	0	0	0
歯科口腔外科	15	38	29
合計	1,122	1,118	1,405

4 種類別麻酔件数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
全身麻酔	505	539	718
腰椎麻酔・硬膜外麻酔	161	205	216
局所麻酔	452	374	471
その他	4	0	0
合計	1,122	1,118	1,405

5 内視鏡検査件数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
食道・胃・十二指腸 ファイバースコープ	2,640	3,134	3,158
ERC	60	59	89
大腸ファイバースコープ	662	937	1,019
気管支ファイバースコープ	7	8	73
合計	3,369	4,138	4,339

6 周産期医療の状況

	平成18年度							平成19年度							平成20年度							助産師外来の 開設状況 (延数)
	正常分娩			異常分娩			合計	正常分娩			異常分娩			合計	正常分娩			異常分娩			合計	
	成熟	早産	小計	成熟	早産	小計		成熟	早産	小計	成熟	早産	小計		成熟	早産	小計	成熟	早産	小計		
4月	30	1	31	6	1	7	38	28	1	29	13	0	13	42	28	0	28	3	1	4	32	6
5月	39	0	39	6	0	6	45	18	0	18	5	0	5	23	26	0	26	5	0	5	31	4
6月	17	0	17	5	2	7	24	29	1	30	2	0	2	32	19	0	19	3	1	4	23	12
7月	34	0	34	7	1	8	42	23	0	23	6	0	6	29	24	0	24	5	0	5	29	15
8月	31	0	31	7	2	9	40	29	1	30	6	0	6	36	23	0	23	12	0	12	35	8
9月	19	2	21	0	0	0	21	26	0	26	5	0	5	31	30	0	30	5	0	5	35	6
10月	27	0	27	5	0	5	32	23	0	23	4	0	4	27	23	0	23	10	0	10	33	16
11月	25	0	25	9	1	10	35	19	0	19	5	0	5	24	24	1	25	6	0	6	31	12
12月	28	0	28	4	0	4	32	20	0	20	9	0	9	29	25	1	26	6	0	6	32	10
1月	32	0	32	1	1	2	34	22	0	22	8	0	8	30	23	2	25	4	0	4	29	8
2月	24	1	25	5	1	6	31	20	0	20	2	0	2	22	19	0	19	4	0	4	23	5
3月	20	1	21	5	0	5	26	23	1	24	8	0	8	32	17	0	17	11	0	11	28	6
合計	326	5	331	60	9	69	400	280	4	284	73	0	73	357	281	4	285	74	2	76	361	108

分娩・・・妊娠12週以後

異常分娩・・・帝王切開、吸引等保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号)により、医師の診療が必要とされる分娩

早産・・・妊娠37週未満(早産児)

平成20年度より「助産師外来の開設状況」の欄を掲載。

7 薬剤室業務の状況

(1) 調剤業務の状況

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
調 剤 数	外来	217,400	221,546	219,655
	入院	26,719	27,365	29,575
	合計	244,119	248,911	249,230
処 方 箋 枚 数	外来	7,641	7,250	6,807
	入院	9,008	8,878	9,723
	合計	16,649	16,128	16,530

(2) 薬品の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
取 扱 品 目 (品 目)	1,302	1,326	1,301
薬 品 収 入 (A) (千 円)	98,683	107,367	107,930
薬 品 費 (B) (千 円)	94,154	99,095	103,798
薬 品 使 用 効 率 (A) / (B) (%)	104.8	108.3	104.0

(3) 服薬指導の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
服 薬 指 導 患 者 数	1,118	1,250	1,812
服 薬 指 導 延 回 数	1,698	1,985	2,247

(4) 注射剤調製の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
外 来 注 射 (化 学 療 法)	401	644	890
外 来 注 射 (レ ミ ケ ー ド 注 他 抗 リ ウ マ チ 薬)	9	15	13
入 院 注 射 (化 学 療 法)	222	386	400
入 院 注 射 (レ ミ ケ ー ド 注 他 抗 リ ウ マ チ 薬)	8	9	18
入 院 注 射 (中 心 静 脈)	11	0	0

8 放射線科(室)の状況

(1)撮影の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
一般撮影	26,793	29,117	29,717
尿路撮影(DPI)	370	372	331
透視撮影	1,141	845	1,178
血管造影撮影	336	397	464
CT(2台)	8,822	10,034	11,361
MRI(1台)	3,102	3,338	3,616
超音波診断	2,910	3,802	3,819
R I	910	1,039	1,069
放射線治療	961	1,507	1,688
骨密度測定	319	362	324
マンモグラフィー	832	1,006	1,144
合計	46,496	51,819	54,711

(2)フィルム使用の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
半切	13,150	15,625	17,609
半切CR用	58,026	67,512	76,653
大角	14,697	14,364	14,168
大四切	8,855	9,296	10,823
四切	8,423	7,854	9,923
六切	6,207	6,048	5,876
18×24	3,096	3,749	4,153
コピーフィルム	2,961	2,925	4,892
合計	115,415	127,373	144,097

(3)血管撮影検査の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
脳神経外科	61	50	66
循環器科	210	293	322
放射線科	65	54	76
合計	336	397	464

(4) MRI検査の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
院内件数	2,820	3,070	3,263
院外件数	282	273	353
合計	3,102	3,343	3,616
頭部件数	1,740	1,944	1,860
体部件数	1,362	1,399	1,756
合計	3,102	3,343	3,616

(5) CT検査の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
M D C T	5,366	6,396	8,522
Single C T	3,456	3,638	2,839
合計	8,822	10,034	11,361
院内件数	8,598	9,782	9,840
院外件数	224	252	1,521
合計	8,822	10,034	11,361

(6) 核医学検査の状況

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
脳神経系	脳血流	138	117	140
	脳血流(負荷)		1	2
	脳			
	脳槽	2		2
	シャントフロー	1		1
		141	118	145
循環器系	心筋血流(同期)	85	54	73
	心筋脂肪酸代謝	17	3	25
	心筋交感神経	99	90	43
	急性心筋梗塞	17	10	8
	代謝+血流同時	9	66	50
	負荷心筋(運動)	61	60	49
	負荷心筋(薬剤)	11	36	33
	心プール	1	1	3
	四肢血流(上肢)	1		
	四肢血流(下肢)	17	5	4
	静脈血栓	12	8	11
	循環血漿流量			1
			330	333
呼吸器系	肺血流	13	21	18
	肺換気	3	2	1
	静脈血栓	1	7	3
		17	30	22
消化器系	肝			1
	胆道	1	1	
	唾液腺	3	6	8
	メッケル憩室		2	
	蛋白漏出試験	3		7
	異所性胃粘膜			
	胃排泄能試験			
	門脈循環短絡			
消化管出血	2	4	8	
		9	13	24
内分泌系	甲状腺	2	14	6
	副甲状腺	1	1	1
		3	15	7
腎尿路系	レノグラム	15	33	47
	レノグラム(負荷)		2	1
	腎	9	9	9
	副腎	4	5	2
	精巣			
		28	49	59
全身検索系	骨	196	212	217
	腫瘍・炎症	93	133	160
	骨髄			
	リンパ節			
	筋血流			
		289	345	377
合計	817	903	934	

(7) 放射線治療の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
新患数	38	60	96
延治療件数	961	1,507	1,688

(8)マンモグラフィーの状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
ドック件数	300	348	382
ドック外件数	532	658	762
合計	832	1,006	1,144

(9)骨密度検査の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
延件数	319	362	324

(10)エコー検査の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
頸部	215	268	334
頸部血管	65	650	500
乳腺	433	534	698
腹部	2,133	2,258	2,194
四肢血管	51	82	86
その他	13	10	7
合計	2,910	3,802	3,819

9 人工透析の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
多人数用装置	11,224	11,840	12,719
単身用装置	279	241	218
合計	11,503	12,081	12,937

平成20年度末現在

患者数(定期) 86人

多人数用装置設置台数 21台(透析センター)

単身用装置設置台数 2台(透析センター1台、HCU1台)

イーカム用血液浄化機 3台(MEセンター2台、HCU1台)

※単身用装置実績にイーカム用も含む。

10 臨床検査の状況

(1) 各種検査件数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
検 尿 検 便	296,232	337,572	369,329
検 血	301,284	336,421	368,063
生 化 学	767,011	859,193	944,712
細 菌	60,952	68,105	89,796
生 理 機 能	21,152	24,059	23,020
そ の 他	15,880	17,512	18,908
合 計	1,462,511	1,642,862	1,813,828

(2) 生理機能検査件数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
1 2 誘 導 心 電 図 検 査	13,436	14,429	14,365
3 分 間 心 電 図	122	129	79
マスター負荷心電図	864	1,182	1,120
簡易ベクトル心電図	1	93	65
ホルター心電図	979	1,056	1,464
心 臓 超 音 波	1,862	2,327	2,792
脳 波 検 査	252	252	218
神 経 電 導 検 査	109	93	127
聴 性 脳 幹 反 応	23	19	8
ス パ イ ロ メ ト リ ー	1,229	1,376	1,973
可 逆 性 試 験	46	13	78
精 密 肺 機 能 検 査	62	56	13
咳 テ ス ト	4	1	
A B I / P W V	200	266	387
C V R - R	43	35	26
心 臓 カ テ ー テ ル	188	276	280
O D テ ス ト			3
聴 力 検 査	1,732	2,456	
簡 易 P S G			10
フルポリ(P S G)			12
合 計	21,152	24,059	23,020

(3) 血液製剤使用量(単位数)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
赤血球	1,096	1,285	1,663
血小板	615	870	910
新鮮凍結血漿	392	769	364
自己血	392	56	40
アルブミン		3,130	3,491
合計	2,495	6,110	6,468

11 リハビリテーションの状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
運動	26,526	24,064	29,221
水治療	1,230	737	564
物理	6,029	4,385	3,500
作業	12,730	11,424	9,256
装具	3	5	4
言語	4,021	4,523	7,246
摂食	380	651	201
合計	50,919	45,789	49,992

12 患者給食の状況

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
普通食	通常	50,116	50,354	57,841
	軟食	51,918	58,260	53,474
	流動食	2,141	2,851	3,293
	小計	104,175	111,465	114,608
特別食	外来透析	813	557	882
	その他	101,766	118,015	116,024
	小計	102,579	118,572	116,906
付添食		926	1,313	1,515
職員食		0	0	0
合計		207,680	231,350	233,029
栄養指導	個人指導	161	142	97
	集団指導	34	12	15
	合計	195	154	112

13 死亡患者数及び病理解剖件数

	死亡患者数			病理解剖件数			病理解剖検査率		
		男	女		男	女		男	女
平成13年度	176	113	63	34	19	15	19.3	16.8	23.8
平成14年度	224	141	83	32	17	15	14.3	12.1	18.1
平成15年度	217	151	66	24	16	8	11.1	10.6	12.1
平成16年度	257	151	106	25	17	8	9.7	11.3	7.5
平成17年度	193	113	80	15	9	6	7.8	8.0	7.5
平成18年度	262	147	115	11	3	8	4.2	2.0	7.0
平成19年度	288	170	118	16	9	7	5.6	5.3	5.9
平成20年度	300	199	101	12	10	2	4.0	5.0	2.0

14 地域医療連携の状況

(1) 紹介及び逆紹介の状況

	平成19年度	平成20年度
全診療情報提供書受理数	3,900	4,101
紹介患者(初診) A	2,346	2,228
初診料算定患者 B	17,910	16,275
外来初診後即入院患者 C	828	847
外来時間外初診患者 D	5,605	5,577
逆紹介数(診療情報料算定) E	2,201	3,240
紹介率(*1)	25.8	28.7
逆紹介率(*2)	17.9	30.3

(*1) 紹介率 = $[(A+C) / (B-D)] \times 100$

(*2) 逆紹介率 = $[E / (B-D)] \times 100$

(2) 亜急性期病床の状況

平成20年度

患者数(人)	延日数(日)
145	2,634

(3) ボランティアの活動状況

平成20年度

○活動人数 16名 ○活動内容

○活動時間 ・新規患者受付の説明及び手伝い

午前8時～午後0時 ・再診受付機の説明

・自動精算機の説明及び手伝い

・車椅子の整備(空気入れ等)

・子供連れの方への受診手伝い

・各科外来、検査室までの案内

・受診の付添い

○活動状況

・活動人数 690人

・活動日数 243日

・一日平均活動人数 2.8人

15 医療安全の状況

(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況

	平成19年度	平成20年度	増減
注 射	155	163	8
与 薬	181	135	△ 46
調 剤	32	71	39
窒 息	3	2	△ 1
転 倒	59	84	25
ドレーン自己抜去	17	42	25
そ の 他	667	784	117
合 計	1,114	1,281	167

(2) 根本原因分析の実施状況

	平成19年度	平成20年度	増減
合計	22	40	18

16 災害医療部会の活動状況

○定例会 毎月第2木曜日

○研修会・訓練

	開催日	テーマ	研修内容	参加人数
第1回研修会	7月1日	災害拠点病院の役割と当院の災害対応能力の現状	災害拠点病院の役割、当院の災害対応能力の現状、緊急避難用資機材の現状について発表した。	297
	7月3日			
第2回研修会	9月2日	災害に関する基礎	災害の講義と各部署の情報伝達訓練を行った。(ふくい災害ボランティアネットより)	214
	9月9日			
第3回研修会	9月29日	災害時の初動対応	災害対策本部や各部署間の情報伝達シュミレーションを行った。	259
	10月1日			
第4回研修会	10月28日	トリアージ	トリアージの講義とタッグの記入訓練を行った。	101
	10月30日			
訓練	12月14日	トリアージ	医療トリアージの習得及び災害時の被災者心理の理解を目標に訓練を行った。	53
第5回研修会	1月27日	災害時のこころのケア	災害時における被災者のこころのケアを学んだ。	74

17 救急蘇生法普及部会の活動状況

○定例会 毎月第1木曜日

【BLS関係】新人研修(4月)。全職員を対象にした講習会(参加者15名。5月以降毎月)

【ICLS関係】第1回ICLSコース(平成21年1月31日(土))

18 倫理委員会の開催状況

開催日	課題名	承認結果
平成20年7月9日	末梢血液白血球細胞の遺伝子発現プロファイルの解析及び遺伝子多型解析による免疫機能解析	承認
平成21年1月26日	本邦における心血管インターベンションの実態調査(J-PCI)	条件付承認
平成21年2月23日	連続自動解析システムを用いた頸動脈壁動態の評価	承認

19 経営評価委員会の開催状況

開催日	内容	講評
12月15日	1 経営の評価に関すること 2 その他病院運営の評価に関すること	概ね良好

20 衛生委員会の開催状況

開催日	内容	報告等
4月25日	1 深夜業務従事者健康診断について 2 特定化学物質業務従事者健康診断について	1 4月21日から5月2日まで実施 対象者163名 2 4月21日から5月2日まで実施 対象者 18名
5月23日	1 深夜業務従事者健康診断結果について 2 電離放射線業務従事者健康診断結果について 3 特定化学物質業務従事者健康診断結果について	・健康診断結果については当院産業医が判定し、結果について本人に報告・二次健診が必要な職員に指導 ・労働基準監督署に報告書提出済
6月10日	1 HBSワクチン接種予定者の案内について	・ワクチン接種について院内感染対策委員会より予定者45名に対し実施報告
7月15日	1 平成19年度健康診断の実施結果について	1 健康診断結果について、本人に報告し、二次健診が必要な職員に指導
8月27日	1 健康診断の実施について 2 HBS ワクチン接種について 3 健康セミナー講師等について	1 平成20年度健康診断を10月21日～30日実施 2 HBS ワクチン接種を実施 3 メンタルヘルスセミナー(10月7日)
9月24日	1 職場巡視の実施について 2 40代無料歯科検診の実施について	1 職場巡視の実施 2 40代無料歯科検診の実施について通知
10月22日	1 乳房検診の実施について 2 第1回職場巡視結果について	1 乳房検診の対象者を50歳以上から40歳以上に引き下げて実施 2 第1回職場巡視報告(10月14日)
11月26日	1 第2回職場巡視結果について 2 人間ドック指定年齢者の受診促進について	1 第2回職場巡視報告(11月11日) 2 人間ドック指定年齢者への受診の指導・受診再募集
12月24日	1 第3回職場巡視結果について 2 健康診断について	1 第3回職場巡視報告(12月17日) 2 職員健康診断の結果を報告・二次健診指導
1月28日	1 第4回職場巡視結果について 2 健康診断の結果について	1 第4回職場巡視報告(1月27日) 2 職員健康診断の二次健診について再通知
3月25日	1 平成21年度衛生委員会の取組みについて	・平成21年度健康診断実施時期について9月に決定

V 固定資産状況

1 有形固定資産の取得状況

平成18年度

単位:円

品名	メーカー名	金額	備考
免疫発光測定装置	フクダ電子㈱	3,360,000	検査室
昇降浴槽	酒井医療㈱	6,510,000	本館2階介護浴室
超音波診断装置	㈱フィリップス	36,697,500	心エコー室
解析付多機能心電計	フクダ電子㈱	1,270,500	本館6階病棟
医療機器安全解析装置	フクダ電子㈱	1,239,000	MEセンター
3ランクギャッチベッド(木目パネル仕様)	パラマウントベッド㈱	4,164,300	本館6階病棟
セントラルモニタシステム	フクダ電子㈱	4,704,000	内視鏡室
尿路系X線撮影システム外	㈱島津製作所	23,415,000	放射線科
多用途筋機能評価運動装置	酒井医療㈱	14,490,000	リハビリテーション科
生理検査・採血患者案内情報システム	㈱テクノメディカル	21,945,000	検査室
高気圧酸素治療装置	川崎エンジニアリング㈱	31,899,000	高気圧酸素治療室
合計		149,694,300	

2 主要医療機器の設置状況(20,000千円以上の機器)

単位:千円

設置場所	品名	取得年月	数量	金額
中央手術室・中央材料室	手術顕微鏡	平成6年8月	1	31,500
内科外来	血管連続撮影装置	平成7年1月	1	248,640
	心拍変動スペクトラシステム	平成7年6月	1	21,788
本館6階病棟	患者監視システム(16人用)	平成8年5月	1	24,150
放射線科	カラーDブロー装置	平成8年11月	1	31,605
	X線骨密度測定器	平成9年11月	1	22,890
	核医学診断装置(デジタルガンマカメラシステム)	平成9年12月	1	139,650
	X線コンピューター断層撮影装置	平成10年12月	1	191,100
薬剤室	全自動錠剤分包機・葉袋印字機	平成11年6月	1	29,715
内科外来	多チャンネル心電図解析記録装置	平成11年7月	1	29,925
放射線科	多用途測定記録装置	平成12年5月	1	25,200
	核磁気共鳴断層撮影装置	平成12年12月	1	316,733
検査室	多項目自動血球分析装置	平成13年12月	1	34,755
放射線科	デジタルガンマカメラ	平成14年11月	1	108,150
内科外来	医用リニアアクセレータ	平成17年3月	1	382,725
	位置決め用全身用X線CT装置	平成17年3月	1	68,040
	二方向型循環器撮影装置	平成17年3月	1	154,875
中央手術室・中央材料室	アルファマック手術台	平成17年6月	6	57,918
	高圧蒸気滅菌装置(クリーン蒸気発生器付)フロアーローディングカート一式	平成17年6月	1	22,365
	低温プラズマ滅菌システム	平成17年6月	1	28,350
北診療棟5階	胎児集中監視システム	平成17年7月	1	23,520
放射線科	多目的オールデジタルX線テレビ装置	平成17年7月	1	66,150
HCU	患者情報統合システム外	平成17年7月	1	33,075
	生体情報モニタ・ベットサイドモニタシステム	平成17年7月	1	23,625
	心血管用超音波診断装置	平成17年7月	1	29,400
放射線科	全身用X線断層撮影装置	平成17年11月	1	236,250
中央手術室・中央材料室	高圧蒸気滅菌装置セミフロアーローディングカート一式	平成17年11月	1	23,373
放射線科	循環器用画像保存装置	平成17年11月	1	23,625
本館7階病棟	無菌病室	平成18年3月	1	45,150
泌尿器科	体外衝撃波結石破碎装置	平成18年3月	1	69,090
検査室	採血管準備システム	平成18年3月	1	22,575
心エコー室	超音波診断装置	平成18年7月	1	36,698
放射線科	尿路系X線撮影システム外	平成18年8月	1	23,415
検査室	生理検査・採血患者案内情報システム	平成18年9月	1	21,945
高気圧酸素治療室	高気圧酸素治療装置	平成18年10月	1	31,899

3 企業債・減価償却の状況

(1) 企業債の年度別状況

単位:千円

	発行総額	当年度償還高	償還高累計	未償還残高	企業債利息
平成15年度	7,123,400	348,190	1,881,934	5,189,656	183,044
平成16年度	9,608,400	344,743	1,881,934	5,241,466	186,974
平成17年度	9,799,400	354,613	2,011,677	7,596,723	224,856
平成18年度	9,636,300	282,651	2,332,942	7,303,358	220,882
平成19年度	9,765,300	291,949	2,624,891	7,140,409	213,853
平成20年度	9,587,400	300,312	2,747,303	6,840,097	205,349

(2) 減価償却額の年度別状況

単位:千円

	建物	構築物	器械・備品	車両	無形固定資産	減価償却費累計
平成15年度	71,869	3,425	222,797	1,031	57	299,179
平成16年度	70,660	2,387	207,965	1,031	38	282,081
平成17年度	63,537	1,909	178,415	871	19	244,751
平成18年度	196,545	2,958	152,755	809	0	353,067
平成19年度	207,357	2,854	127,599	809	0	338,619
平成20年度	207,142	2,724	91,988	650	0	302,504

VI 研究業績

1 診療部

内科

(論文発表)

1. メロキシカム錠 5mg の生物学的同等性試験
ーメロキシカム錠 5mg 「TYK」ならびにメロキシカム錠 5mg 「YD」とモービック®錠 5mg
の比較ー
高橋秀房, 水野 優*, 西村卓哉*, 春日井俊介*, 木村健一郎*, 吉田 豊*, 山下まゆみ*
医学と薬学 59 (5) : 867-875, 2008.

(学会発表)

1. 心疾患における病診連携
音羽勘一
第 87 回福井県医学会, 2008 年 5 月, 敦賀.
2. 禁煙外来の保険診療化がもたらしたもの
高橋秀房
第 48 回日本呼吸器学会総会, 2008 年 6 月, 神戸.
3. 呼吸筋麻痺のため人工呼吸器管理が必要となったツブ貝中毒の 1 例
田中良男, 三田村康仁, 中野 学, 浅井 純, 清水和朗, 小林元夫, 音羽勘一,
五十嵐一誠, 高橋秀房, 池田孝之
第 206 回日本内科学会北陸地方会, 2008 年 9 月, 福井.
4. 自律神経障害が洞停止・房室ブロックに関与したと考えられる II 型糖尿病の 1 例
音羽勘一, 三田村康仁, 中野 学, 池田孝之
日本循環器学会第 132 回東海, 第 117 回北陸合同地方会, 2008 年 11 月, 名古屋.
5. 起立時のめまいを伴った発作性房室ブロックの 1 例
神近哲郎, 三田村康仁, 中野 学, 音羽勘一, 池田孝之
日本循環器学会第 132 回東海, 第 117 回北陸合同地方会, 2008 年 11 月, 名古屋.
6. Churg Strauss Syndrome に気管支粘液栓を合併した 1 例
十河大悟, 高橋秀房, 五十嵐一誠, 音羽勘一, 清水和朗, 浅井 純, 小林元夫, 中野 学,
三田村康仁, 池田孝之
第 207 回日本内科学会北陸地方会, 2009 年 3 月, 金沢.

外科

(論文発表)

1. 成人男性の後腹膜に発生した成熟型奇形腫の1例
佐藤裕英, 渡辺剛史, 森川充洋, 林 泰生, 飯田茂穂
日臨外会誌 70 (1) : 243-248, 2009.

(学会発表)

1. カフなし気切カニューレの位置異常で頻回の吸痰を要した1例
市橋 匠, 飯田茂穂, 佐藤裕英, 林 泰生, 森川充洋, 渡辺剛史, 竹内香代, 木船孝一
第46回日本呼吸器内視鏡学会北陸地方会, 2008年5月, 金沢.
2. 当院における内シャント作製術—初期成功率向上を目指して
飯田茂穂
第28回日本静脈学会総会, 2008年6月, 箱根.
3. 85歳以上の肺癌症例の検討
市橋 匠, 飯田茂穂, 佐藤裕英, 林 泰生, 森川充洋, 渡辺剛史, 木船孝一
第58回日本肺癌学会北陸支部会, 2008年7月, 富山.
4. 内シャント作製術—側々吻合のすすめ
飯田茂穂, 竹内香代, 十河大悟, 渡辺剛史, 森川充洋, 林 泰生, 佐藤裕英, 市橋 匠
第31回北陸血管手術懇話会, 2008年7月, 金沢.
5. 気管切開に係わる安全対策について
市橋 匠, 飯田茂穂, 佐藤裕英, 林 泰生, 森川充洋, 渡辺剛史
第47回日本呼吸器内視鏡学会北陸地方会, 2008年10月, 福井.

(講演)

1. 血管外科—最近のトピックス
飯田茂穂
鯖江市医師会, 2008年7月, 鯖江.

整形外科

(学会発表)

1. 当院における人工骨頭置換術の検討
柳下信一, 朝田尚宏, 田尻和八, 重本顕史, 山田義夫
第 37 回北陸リウマチ・関節外科学会, 2008 年 7 月, 金沢.
2. 骨切り部への骨移植を必要とした, Dall' s approach による THA の 1 例
柳下信一, 朝田尚宏, 田尻和八, 重本顕史, 山田義夫
第 5 回関節外科懇話会, 2008 年 12 月, 福井.
3. 当院における人工骨頭置換術の検討
柳下信一, 朝田尚宏, 田尻和八, 重本顕史, 山田義夫
第 35 回日本股関節学会, 2008 年 12 月, 大阪.
4. 当院における人工骨頭置換術の検討
柳下信一, 朝田尚宏, 田尻和八, 重本顕史, 山田義夫
第 39 回日本人工関節学会, 2009 年 2 月, 東京.

皮膚科

(著書)

第 I 章 日常診療で出会う症状・症候へのアプローチ

- | | | |
|-----------------|--------|------|
| 1. 頻度の高い症状 ⑦ 発疹 | P35-37 | 朝井靖彦 |
|-----------------|--------|------|

第 II 章 臓器・疾患別の薬の使い方

- | | | |
|-------------------|----------|------|
| 12. 皮膚疾患 ①湿疹・皮膚炎群 | P545-551 | 朝井靖彦 |
| ②蕁麻疹 | P552-554 | 朝井靖彦 |
| ③皮膚感染症 | P555-563 | 朝井靖彦 |
| ④薬疹 | P564-566 | 朝井靖彦 |
| ⑤褥瘡 | P567-571 | 朝井靖彦 |

第 III 章 諸科にわたって使われる薬剤

- | | | |
|------------|----------|------|
| 3. 抗アレルギー薬 | P657-669 | 朝井靖彦 |
|------------|----------|------|

治療薬・治療指針ポケットマニュアル 2009

小谷和彦*, 朝井靖彦 編集, 羊土社, 東京, 2009.

(論文発表)

1. [総説] 地域中核病院における皮膚科学的アンチエイジングアプローチ：
「しみ」に対するレーザー治療を通して
朝井靖彦, 小谷和彦*
日本比較臨床医学会誌 16 (2) : 34-37, 2008.
2. シリーズ よく使う日常治療薬の正しい使い方
一般内科で使う湿疹病変へのステロイド外用剤の使い方
朝井靖彦
レジデントノート 10 (7) : 1067-1070, 2008.

(学会発表)

1. 生活習慣病における酸化分子の測定とその意義 ～d-ROMs test を用いた検討～
小谷和彦*, 坂根直樹*, 朝井靖彦
第 39 回日本比較臨床医学会学術集会, 2008 年 7 月, 神奈川.
2. 皮膚科学的アンチエイジングアプローチ
地域中核病院における「しみ」に対するレーザー治療の実際
朝井靖彦, 小谷和彦*, 葛西健一郎*, 池田孝之
第 47 回全国自治体病院学会, 2008 年 10 月, 福井.

(講演)

1. 床ずれ予防のおはなし
朝井靖彦
敦賀いきいき生涯大学講演, 2008 年 5 月, 敦賀.
2. 褥瘡と地域連携
朝井靖彦
医療法人保仁会泉ヶ丘病院訪問看護ステーション・嶺南ケアサービスセンター研修会
2008 年 12 月, 敦賀.

泌尿器科

(学会発表)

1. 実録：緩和ケアチーム立ち上げ

澤田樹佳, 川上浩文, 松村由紀子, 松見美由紀, 湊 直子, 奥 佐知子, 田辺里江,
野瀬とも子

第7回日本臨床腫瘍学会, 2009年3月, 名古屋.

産婦人科

(学会発表)

1. 妊孕性温存治療を行った悪性卵巣胚細胞腫瘍の3症例

鶴野千恵, 秋元宏輝, 山崎 洋

第16回福井婦人科悪性腫瘍研究会, 2008年6月, 福井.

2. 当院で経験した若年性悪性卵巣胚細胞性腫瘍の症例

鶴野千恵, 秋元宏輝, 山崎 洋

第47回全国自治体病院学会, 2008年10月, 福井.

(講演)

1. 10代の性について

山崎 洋

平成20年度文部省委託「性に関する教育」普及推進事業

「子育て講演会」, 松陵中学, 2008年7月, 敦賀.

2. 小学生・中学生・高校生にみられる婦人科疾患

山崎 洋

第2回敦賀市医師会養護教諭勉強会, 2009年2月, 敦賀.

麻酔科

(学会発表)

1. セルボフルランの手術部位感染に及ぼす影響

清水久美子

第55回日本麻酔科学会, 2008年6月, 横浜.

医療安全管理室

(学会発表)

1. 市立敦賀病院の医療安全の取り組みと現状

市橋 匠, 塚原洋子

第8回日本医療マネジメント学会福井県地方会, 2009年1月, 福井.

2 医療技術部

検査室

(学会発表)

1. 悪性骨腫瘍と鑑別を要した好酸性肉芽腫

高城賀津子, 秋山綾子, 竹腰友博, 高島和佳, 市橋 匠, 原田憲一*

第48回近畿医学検査学会, 2008年10月, 神戸市.

2. 細胞診が有用であった嚢胞内乳癌の1例

秋山綾子, 高城賀津子, 竹腰友博, 高島和佳, 市橋 匠, 原田憲一*

第26回日本臨床細胞学会福井県支部総会並びに学術集会, 2009年3月, 福井.

放射線室

(学会発表)

1. 肩疾患におけるRadial Scanの有用性

～関節唇を中心に～

田泉智明, 山本理佐, 山崎 巖, 日比 武, 平口博之, 木船孝一, 朝田尚宏

第47回全国自治体病院学会, 2008年10月, 福井.

2. 福井県における緊急被爆ネットワーク～原発事故の教訓～

山崎 巖

第47回全国自治体病院学会, 2008年10月, 福井.

3. 肩疾患におけるRadial Scanの有用性(第2報)

山崎 巖, 田泉智明

平成20年度中日本地域放射線技師学術大会, 2008年11月, 福井.

4. 美浜原発事故を経験して

山崎 巖

宮城県放射線管理・機器管理合同学術大会, 2009年3月, 仙台.

5. 頭部3DCTAにおけるBT法の検討

清水敦之, 小林正彦, 森田 勝, 平口博之

平成20年度福井県放射線技師会学術大会, 2009年3月, 福井.

リハビリテーション室

(学会発表)

1. 運動指導と歩数計等の配布がおよぼす効果について

増井正清

第43回日本理学療法学術大会 2008年5月, 福岡.

2. 糖尿病患者の運動習慣について

増井正清, 堀 秀昭*

全国自治体病院学会 2008年10月, 福井.

3. 人工骨頭置換術 術後の理学療法の検討

小橋昭夫

全国病院理学療法協会北陸会学術研修会, 2008年10月, 高岡.

臨床工学技術室

(学会発表)

1. 穿刺針外筒の残留事故報告と穿刺時の当院での取り組み

三好千恵

第47回全国自治体病院学会, 2008年10月, 福井.

3 薬剤部

薬剤室

(論文発表)

1. がん化学療法支援ツールの構築と外来化学療法への取り組み
松見美由紀, 竹田美佳, 海崎真菜, 西島勝之, 藤長宏昌, 長谷川真理子,
中川昌尚, 松坂琴美
日本病院薬剤師会雑誌 第44巻2号(248-252), 2008.

(学会発表)

1. チーム医療における専門薬剤師の責任 (シンポジウム)
南 佳宏
第47回全国自治体病院学会, 2008年10月, 福井.
2. がん終末期における鎮痛薬の使用状況調査
松見美由紀
第47回全国自治体病院学会, 2008年10月, 福井.
3. 各種コードを利用した院内医薬品集作成の効率化
中川昌尚
第47回全国自治体病院学会, 2008年10月, 福井.
4. 院外処方せんの疑義照会に関する現状と問題点
大久保康広
平成20年度福井県薬剤師会・福井県病院薬剤師会合同研究会, 2009年3月, 敦賀.

4 看護部

(論文発表)

1. 入退院を繰り返すネフローゼ症候群患児への関わり—5歳児の内服指導を通して—
山口里子, 宮元麻衣, 田中知子
第39回日本看護学会論文集 小児看護: 280-282, 2008.
2. 実践演習 血糖パターンマネジメントをやってみよう
加藤久代
糖尿病ケア 6(1): 41-47, 2009.

(学会発表)

1. 水周りの汚染度調査

小田島尚子, 山本高子, 落合菜美子, 田辺里江, 長谷川保弘*, 村中明美, 角田敬子,
中村陽子*

第 39 回日本看護学会 総論, 2008 年 7 月, 金沢.

2. 入退院を繰り返すネフローゼ症候群患児への関わりー5 歳児の内服指導を通してー

山口里子, 宮元麻衣, 田中知子

第 39 回日本看護学会 小児看護, 2008 年 9 月, 新潟.

3. NST 介入による PEG-J 導入が有効であった 1 例

湊 直子, 森永雪野, 加藤つよ子, 良方あゆみ, 吉田千佳子, 井上雅美, 高城茂弘,
東 正浩, 竹田美佳, 藤長宏昌, 宮木孝明, 田辺辰浩, 舘 陽子, 中谷弘光, 小林元夫,
森川充洋, 林 泰生

第 18 回福井 NST 研究会, 2008 年 7 月, 福井.

4. 当院における助産師外来の現状と今後の課題

飯田登美子, 中西真由美

第 47 回全国自治体病院学会, 2008 年 10 月, 福井.

5. 整形外科病棟・亜急性期病床における退院計画への取り組み

近江谷未幸, 中村祐子

第 47 回全国自治体病院学会, 2008 年 10 月, 福井.

6. 地域連携看護での褥瘡ケア継続への取り組み

小川三枝, 田中知子

第 47 回全国自治体病院学会, 2008 年 10 月, 福井.

7. 不妊相談

加藤つよ子

生殖医療心理カウンセリング学会, 2009 年 2 月, 福井.

8. 末梢静脈留置カテーテルの規定期間内の交換を目指した取り組み

植木真粧美, 奥野照代, 下町真理子

第 26 回福井県看護研究発表会, 2009 年 3 月, 福井.

9. 術中訪問の必要性の検討と導入の試み
高橋昌子, 川島あゆみ, 北川由佳, 宮崎泰子
第 26 回福井県看護研究発表会, 2009 年 3 月, 福井.
10. 集中治療室での家族援助に対する看護師の意識調査
杉本智恵, 下町智子, 田中麻里, 村中明美
第 26 回福井県看護研究発表会, 2009 年 3 月, 福井.
11. 職員の手洗いに対する感染対策委員の取り組み
嶋田ルミ子, 堀内博恵, 榎本恭子, 前田昭子
第 8 回嶺南感染コントロールフォーラム, 2009 年 3 月, 美浜.
12. 当院における半固形化栄養剤投与の試み
泉本祐子, 森永雪野, 加藤つよ子, 良方あゆみ, 吉田千佳子, 井上雅美, 高城茂弘,
東 正浩, 竹田美佳, 藤長宏昌, 宮木孝明, 田辺辰浩, 舘 陽子, 中谷弘光, 小林元夫,
森川充洋, 林 泰生
第 20 回福井 NST 研究会, 2009 年 3 月, 福井.

5 事務局

地域医療連携室

(学会発表)

1. 市立敦賀病院の前方連携強化への取り組み
猿橋真由美, 大石美穂
第 47 回全国自治体病院学会, 2008 年 10 月, 福井.

6 臨床病理検討会

	CPC開催日	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	CPC開催回数
1	平成20年4月30日 循環器科 会場 金沢大学	1. うっ血性心不全、 (陳旧性心筋梗塞)・ 2. 洞不全症候群・ 3. 肝癌・ ・ ・	陳旧性心筋梗塞	1. 肝細胞癌 2. 腎硬化症 3. 大動脈粥状硬化症(中等度) 死因 循環不全	1. 肝細胞癌(両葉、 結節型、中分化型、 索状型(肝915g)・ 転移:右肺(微小転移)、腸間膜・ 2. 慢性B型肝炎、 F1A1・	1. 陳旧性心筋梗塞(左心室膀胱後壁～心室中隔、貫壁性)(心臓240g) 2. 動脈硬化性腎硬化症(左95g;右75g) 3. 大動脈粥状硬化(中等度) 4. [高血圧症] 死因 急性循環不全	平成20年度 第1回CPC
2	平成20年6月26日 内科 会場 金沢大学	1. 肺炎・ 2. 脳梗塞・ 3. 再生不良性貧血	肺炎疑い(左190g、 右275g)	1. 心肥大(中等度、375g)+ [僧房弁閉鎖不全症]+[三尖弁閉鎖不全症]・ 2. 肺うっ血水腫(軽度)(左190g、右275g)・ 3. 大動脈粥状硬化(軽度)・ 4. 消化管出血(中等度)・ 5. 胃体上部後壁大わん側粘膜下石灰化物(径0.8cm)・ 6. 両側腎嚢胞・ 7. 脾萎縮・ 8. 脾萎縮(35g)・ 9. 脳萎縮・ 10. 再生不良性貧血 * 開頭なし 死因 肺炎疑い	誤嚥性肺炎:気腫性変化、慢性気管支炎、うっ血、水腫を伴う(左190g;右275g)	1. 心肥大(中等度)+[僧房弁閉鎖不全症]+[三尖弁閉鎖不全症](心375g)・ 2. 消化管粘膜出血(軽度)・ 3. 大動脈粥状硬化(中等度)・ 4. 胃 gastrointestinal stromal tumor(GIST)・ 5. 両側腎嚢胞(左105g;右90g)・ 6. 脾萎縮(35g)・ 7. ヘモジデロシス(肝、脾、輸血後状態)・ 8. 虫垂切除後状態・ 9. [再生不良性貧血]・ 10. [脳梗塞] 死因 呼吸不全	平成20年度 第2回CPC
3	平成20年6月26日 内科 会場 金沢大学	1. 肺炎・ 2. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)・ - 肺気腫 - 3. アルツハイマー型認知症	[肺炎]+[慢性閉塞性肺疾患]+二重癌(膀胱癌術後+大腸癌術後)	1. 肺炎(左355g、右600g)・ 2. 慢性閉塞性肺疾患・ 3. 膀胱癌術後(詳細不明)・ 1)局所再発および転移なし・ 4. 大腸癌術後(詳細不明)・ 1)局所再発および転移なし・ 5. 肺うっ血水腫(中等度～高度、左355g、右600g)・ 6. 動脈粥状硬化(高度)一部に粥腫露出を伴う・ 7. 胆嚢結石症(径0.6cm大まで3個)・ 8. 脾萎縮・ 9. 両側腎嚢胞症・ 10. 胃および十二指腸潰瘍(2.5x2cmまで)・ 11. 大腸粘膜下腫瘍(1.0x0.8cm)・ 12. 大腸ポリープ(径0.5cm大、径0.3cm大)・ 13. 大腸憩室症・ 14. アルツハイマー型認知症 * 開頭なし 死因 呼吸不全	1. 肺気腫(汎小葉性)+慢性気管支炎+気管支肺炎(高度)(左355g;右600g) 2. 二重癌(膀胱癌+大腸癌) 1)膀胱癌(移行上皮癌、TUR治療後状態) 再発および転移なし 2)大腸癌(高分子型管状腺癌、盲腸、回盲部分切除後状態) 再発および転移なし	1. 肺うっ血水腫(中等度) 2. 動脈硬化性腎硬化症+貯留嚢胞(左120g;右115g) 3. 大動脈粥状硬化症(高度):粥腫露出を伴う 4. 胆嚢結石症(径0.6cm大3個) 5. 多発性胃潰瘍(2cm大) 6. 十二指腸憩室(20.5cm x 2.0cm大まで2個) 7. 空腸異所脾(1.0x0.8cm) 8. 大腸憩室症:左側結腸に多発 9. 脾萎縮(35g) 10. [アルツハイマー型認知症] 死因 呼吸不全	平成20年度 第3回CPC

	CPC開催日	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	CPC開催回数
4	平成20年9月26日 循環器科 会場 金沢大学	1.間質性肺炎・ 2.狭心症・ 3.糖尿病、糖尿病性腎症・	右肺癌術後状態 (2003年、詳細不明) +肺うっ血水腫(中等 度 49g/325g)・	1. 冠状動脈バイパス術後状態(2003年、詳細不明)(心臓830g)・ 2. 大動脈粥状硬化症(高度;多量の粥腫露出を伴う)・ 3. 食道潰瘍(最大2x1cm大まで3箇所)・ 4. 慢性閉塞性肺疾患 5. 糖尿病・ 6. 高血圧症・ 7. 高脂血症・ 8. 慢性腎不全・ 9. 間質性肺炎・ 10.胆石症術後状態(200年、詳細不明)・ 11.腹部大動脈瘤術後状態(2002年、詳細不明)・ 12.閉塞性動脈硬化症バイパス術後状態(2002年、詳細不明)・ 13.脳動脈瘤内コイル塞栓術後状態(2006年、詳細不明) 死因 呼吸不全	1. 間質性肺炎(fibrosing NSIP)パターンが主体(左480g;右325g) 2. 右肺癌術後(扁平上皮癌、右肺下葉切除後状態) 再発及び転移なし	1. 求心性心肥大+冠動脈硬化症(高度)(500g) 1)心筋線維化:左室側壁~後壁 2)冠動脈バイパス術後状態 2. 肺気腫+慢性気管支炎;軽度うっ血水腫を伴う 3. 大動脈粥状硬化(高度);多量の粥腫露出を伴う 4. 腹水(少量) 5. [糖尿病;三大合併症を伴う] 6. [高血圧症] 7. [高脂血症] 8. [慢性腎不全] 9. [腹部大動脈粥状硬化症瘤術後状態(術後5年)] 10. [閉塞性動脈硬化症バイパス術後状態(術後5年)] 11. [脳動脈瘤内コイル塞栓術後状態(術後1年)] 12. [胆石症術後状態(術後7年)] 死因 呼吸不全	平成20年度 第4回CPC
5	平成20年9月26日 循環器科 会場 金沢大学	1. 心原性ショック・ 2. 急性心筋梗塞・ 3. 心停止後・	急性心筋梗塞疑い (心重量 325g)・	1. 肺鬱血(左肺気腫 345g、右肺350g)・ 2. 大動脈・冠 大動脈硬化症(ごく軽度)・ 3. 縦隔リンパ節腫脹・ 4. 心膜血腫 死因 急性左心不全疑い	1. 急性心筋梗塞(前壁中隔梗塞、発症約1日) 2. 高度冠動脈粥状硬化症+左前下行枝腫粥腫破綻	1. 肺うっ血+肺の斑状繊維化(極く軽微) 2. 左臓側胸膜下出血(軽度)(左345g、右350g) 3. 大動脈硬化症(軽度) 4. 心膜血腫(ごく軽微)	平成20年度 第5回CPC
6	平成20年9月26日 内科 会場 金沢大学	1. 胸部大動脈破裂・ 2. 急性胆管炎・ 3. 胆石症・ 左肺癌術後・	1. 左肺癌術後(術後10年、再発、転移なし)・ 2. 膀胱癌術後(術後6年、再発、転移なし)	1. 左胸膜癒着(+左血胸)・ 2. 全身性動脈硬化症(中~高度)・ 3. 左冠動脈軽度狭窄(LAD)・ 4. 胆石症+胆嚢頸部、総胆管結石かん頓・ 5. 総胆管、膵管粘膜点状出血・ 6. 右副腎腫瘍(2x2x1.5cm)・ 7. 動脈硬化性腎硬化症(軽度145g、130g)・ 8. 虫垂切除後状態・ 死因 不明	1. 左肺癌術後(低分化腺癌、術後10年)(再発なし、転移なし) 2. 膀胱癌術後(尿路上皮癌、術後6年)(再発なし、転移なし)	1. 大動脈硬化症(中等度)・ 2. 冠動脈粥状硬化、粥腫破綻・ 3. 冠動脈壁血栓(LAD)・ 4. 心斑状繊維化・ 5. 混合型肺炎(軽度)・ 6. 左胸膜癒着・ 7. 胆石症、胆嚢頸部・総胆管結石かん頓・ 8. 慢性胆嚢炎、慢性胆管炎+急性胆嚢炎、急性胆管炎(軽度)・ 9. 肝門部胆管拡張症(軽度)・ 10. 肝嚢胞・ 11. 右副腎皮質腺腫(7.9g)・ 12. 動脈性腎硬化症(軽度)・ 13. 虫垂切除後 死因 循環不全、あるいは不整脈疑い	平成20年度 第6回CPC
7	平成20年9月26日 内科 会場 金沢大学	間質性肺炎・	[急性間質性肺炎] (375g; 450g)・ 一軽度重量増加・ 一明らかなくうっ血水腫なし	大動脈粥状硬化症(極く軽度) 死因 呼吸不全疑い	急性間質性肺炎(サイトメガロウイルス性)(375g;450g)	1. 食道びらん(サイトメガロ感染を疑う) 2. 全身性大動脈粥状硬化症(軽度) (胸部臓器のみ)	平成20年度 第7回CPC

	CPC開催日	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	CPC開催回数
8	平成20年10月24日 内科 会場 市立敦賀病院	1. 肺塞栓症・ 2. 肺炎	肺動脈血栓塞栓症 (右肺動脈)	1. 肺うつ血(左400g、右600g) ・ 2. 軽度心肥大(390g)・ 3. 軽度大動脈硬化症・ 4. 腎硬化症(軽度、左105g、 右105g)・ 5. 腹膜癒着(中等度)・ 6. 子宮摘出後・ 7. 虫垂切除後・ 死因 肺動脈塞栓症	肺動脈性塞栓症(舌 区枝、下葉枝、右上 葉枝、中下葉枝)＋ 肺うつ血 (左400g、右600g)	1. 誤嚥性肺炎(左下葉、右じょう う、右下葉) 2. 右心室肥大(390g) 3. 腎硬化症(軽度、左105g、右105 g) 4. 大動脈粥状硬化(軽度) 5. 子宮摘出後 6. 虫垂切除後	平成20年度 第8回CPC
9	平成20年10月24日 循環器科 会場 市立敦賀病院	1. 肺炎・ 2. 心不全・ 3. 心房細動・ 4. 胃瘻、人工肛門造設 後・ 5. 仙骨部褥瘡 6. 胆のう炎後・	肺うつ血(左435g、右 485g)	1. 心室拡張＋心重量増加 (455g)・ 2. 高度大動脈硬化症・ 3. 心室中隔纖維化＋冠動脈 硬化(高度、3度)・ 4. 動脈硬化性腎動脈硬化症 (中等度、左135g、右110g)・ 5. 右腎結石(14mm以下4個) ・ 6. 胆石症・ 7. 脾腫・ 8. 胃瘻造設後＋[人工肛門 造設後]・ 9. [仙骨部褥瘡] 死因 呼吸不全＋心不全疑 い	誤嚥性肺炎(左435 g、右485g)	1. 拡張型心肥大(両室性、軽度、 455g)＋心内膜下線維化(前壁中 隔、後壁)・ 2. 高度冠動脈粥状硬化症・ 3. 大動脈弁硬化(高度)・ 4. 慢性うつ血(軽度、肺、肝850g、 脾220g)・ 5. 動脈硬化性腎硬化症(高度、左 135g、右110g)・ 6. 右腎結石＋右尿路感染症・ 7. 慢性胆嚢炎＋胆石症・ 8. 大動脈粥状硬化症(高度)・ 9. 胃瘻、人工肛門造設後・ 10.[仙骨部褥瘡] 死因 呼吸不全	平成20年度 第9回CPC
10	平成21年1月29日 循環器科 会場 金沢大学	1. 慢性腎不全・ 2. 糖尿病・ 3. 胸部下行大動脈乖離 後・ 4. 腹部大動脈瘤・	腎のう胞(110g; 105 g)[慢性腎不全]・	1. 胸部下行大動脈解離 (25cm長)＋腹部大動脈瘤 (径6.5cmx8.5cm長)・ ＋高度動脈硬化症・ 2. 膵頭部脂肪壊死(80g)[糖 尿病]・ 3. 心筋纖維化(左室側壁)＋ 冠動脈粥状硬化症(LADに対 しPOBA後状態)・ 4. 胆石＋総胆管結石・ 5. 肝白色結節性病変(7mm 大)・ 6. 消化管点状出血・	動脈硬化性腎硬化 症＋虚血性急性尿 細管壊死(110g; 105 g)	1. 胸部解離性大動脈瘤(Stanford B型、25cm長)・ 2. 腹部大動脈瘤(腎動脈下部、径 6.5cmx8.5cm長)・ 3. 全身粥状動脈硬化症(高度)・ 4. 全身性コレステリン結晶小動脈 塞栓症(肝、脾、腎、小腸、大 腸)・ 5. 心筋線維化＋冠動脈硬化症 (LADに対しPTCA後状態)・ 6. 膵脂肪浸潤＋急性出血性壊死 性膵炎(80g)・ 7. 胆石胆嚢炎＋総胆管結石・ 8. 消化管点状出血・ 9. 腎乳頭状腫・ 10. 肝偽脂肪腫 死因 腎不全	平成20年度 第10回CPC
11	平成21年1月29日 内科 会場 金沢大学	1. 出血性ショック・ 2. 血小板減少症・	消化管出血(胃～S 状結腸 直腸は摘 出されなかった)	1. 肺結節性病変 左上葉 2 cm大まで(340g; 290g)・ 2. 心肥大(左室肥大)(455g) ・ 3. 胸膜肥厚・ 4. 動脈粥状硬化症 高度・ 5. 腎のう胞(120g; 115g)・ 6. 低栄養状態(脂肪量の低 下)・	出血傾向[血小板減 少症(特発性血小板 減少性紫斑病疑い)] ・ 消化管大量出血 (胃～S状結腸、直腸 は摘出されず)、肺出 血、心臓の点状出 血、紫斑	1. 肺気腫＋結核(340g; 290g)・ 2. 左心肥大＋心筋纖維化(455g)・ 3. 腹部大動脈瘤(粥状硬化症に伴 う)・ 4. 全身粥状動脈硬化症(高度)・ 5. 腎硬化症＋尿管間質炎＋右 腎盂黒色石(120g; 115g)・ 6. るいそう 死因 上部消化管大量出血	平成20年度 第11回CPC
12	平成21年1月29日 内科 会場 金沢大学	1. 肺炎・ 2.慢性閉塞性肺疾患・ 3.胸部変形・ 4.脳梗塞後遺症・	肺うつ血水腫、高度 (左 430g、右 560g)・	1. 肺炎 2. 慢性閉塞性肺疾患 3. 大動脈粥状硬化症(軽 度)・ 4. 脳梗塞後遺症 開頭な し	1. 誤嚥性肺炎;器質 化・硝子膜形成を伴 う(左430g; 右560 g)・	1. 慢性気管支炎・ 2. 大動脈粥状硬化症、中等度・ 3. 求心性心肥大＋心褐色萎縮(2 10g)・ 4. [脳梗塞後遺症] 死因 呼吸不全	平成20年度 第12回CPC

	CPC開催日	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	CPC開催回数
13	平成21年2月26日 内科 会場 市立敦賀病院	1. 肺炎・ 2. 脳梗塞・ 3. 再生不良性貧血	肺炎疑い(左190g、 右275g)	1. 心肥大(中等度、375g)+ [僧房弁閉鎖不全症]+[三尖 弁閉鎖不全症]・ 2. 肺うっ血水腫(軽度)(左 190g、右275g)・ 3. 大動脈粥状硬化(軽度)・ 4. 消化管出血(中等度)・ 5. 胃体上部後壁大わん側粘 膜下石灰化物(径0.8cm)・ 6. 両側腎嚢胞・ 7. 脾萎縮・ 8. 脾萎縮(35g)・ 9. 脳萎縮・ 10. 再生不良性貧血 * 開頭なし	誤嚥性肺炎;気腫性 変化、慢性気管支 炎、うっ血、水腫を伴 う(左190g;右275g)	1. 心肥大(中等度)+[僧房弁閉鎖 不全症]+[三尖弁閉鎖不全症](心 375g)・ 2. 消化管粘膜出血(軽度)・ 3. 大動脈粥状硬化(中等度)・ 4. 胃 gastrointestinal stromal tumor(GIST)・ 5. 両側腎嚢胞(左105g;右90g)・ 6. 脾萎縮(35g)・ 7. ヘモジデロシス(肝、脾、輸血 後状態)・ 8. 虫垂切除後状態・ 9.[再生不良性貧血]・ 10.[脳梗塞] 死因 呼吸不全	平成20年度 第2回、13回 CPC
14	平成21年2月26日 内科 会場 市立敦賀病院	1. 肺小細胞癌・ 2. 肺炎	左肺癌[小細胞癌] (肺重量;左520g,右 475g)・ 化学療法・放射線 療法後・ 転:[右肺],[肝]・ リ:なし	1. 胸膜癒着・ 2. 大動脈粥状硬化症(中等 度)・ 3. 左横隔膜(胸腔側)ブラ ク様白斑(9x6cm大)・ 4. 胃粘膜点状出血・ 5. 虫垂切除後状態・ (臓器摘出後状態)	1. 肺小細胞癌(左上 葉、放射線・化学療 法後。肺に小細胞癌 の残存なし)・ (肺重量;左520g、 右475g)・ 転:肝・ リ:脾周囲リンパ 節・ 2.肺扁平上皮癌(左 下葉肺門部 2.5x 2.5cm大、右上葉2.2x 1.5cm大)・ 転:なし・ リ:なし	1. 気管支肺炎(中等度)(一部に器 質化を伴う)+肺うっ血(左下葉)・ 2. 胸膜炎(線維素性~線維性)+ 胸膜癒着[+左胸水]・ 3. 気腫性変化(左上葉)・ 4. 大動脈粥状硬化症(軽度~中等 度)・ 5. 大腸憩室・ 6. 脾ヘモジデロシス(脾重量45 g)・ 7. 胆管性微小過誤腫・ 8. 虫垂切除後状態 (臓器摘出 後状態)・ 死因 呼吸不全	平成20年度 第14回CPC
15	平成21年2月27日 循環器科 会場 金沢大学	1. 肺炎・ 2. 心筋梗塞・ 3. 腎不全	陳旧性心筋梗塞(心 内膜下梗塞)+急性 心筋梗塞(疑い)・ 一前壁~側壁 一中隔~前壁 ○左冠状動脈:起 始部:ステント(1.8c m),内部に凝血/血 栓?充滿・ ○右冠状動脈:動 脈硬化軽度 動脈硬化+狭窄:中 等度・ 心重量465g	1. 肺うっ血水腫 (430g;6 00g)・ 2. 大動脈粥状硬化症(高度) ・ 3. 腎硬化症(動脈硬化性か) 100g;105g・ 4. 胆のう壁内石+コレステ ローシス・ 5. 糖尿病	心筋梗塞(急性:心 内膜下,中隔~前壁, および陳旧性:心内 膜下,側壁~前壁;4 65g)・ 左冠状動脈:中等度 動脈粥状硬化(左主 幹部,回旋枝ステント 挿入状態)・ 右冠状動脈:軽度動 脈粥状硬化・	1. 誤嚥性肺炎(430g;600g)・ 2. [糖尿病]+脾島アミロイド沈着 (235g)・ 3. 腎硬化症(糖尿病性+動脈硬化 性,100g;105g)・ 4. 大動脈粥状硬化症(高度)・ 5. 軽度うっ血肝(905g)・ 6. 慢性胆嚢炎+コレステローシス 死因 心筋梗塞による心不全	平成20年度 第15回CPC
16	平成21年3月4日 内科 会場 市立敦賀病院	1. 肺炎・ 2. 慢性腎不全 (ADPKD)・ 3. 脳腫瘍?(ADEMS/O)・ 4. 陳旧性心筋梗塞(平 成17年8月)	高度肺腫脹(左 1060g、右1160g)	1. 陳旧性心筋梗塞(左室後 壁、貫壁性)+冠動脈粥状硬 化(3枝起支部)・ 2. 右房、左室、肺動脈壁在血 栓・ 3. 大動脈硬化症(中等度~ 高度)+大動脈脈壁在血栓 (大動脈弓、分支部)・ 4. 多発性?腎(左285g、右 260g)+CAPDチューブ挿入状 態・ 5. 多発性肝嚢胞(1240g)・ 6. 腔水症(胸水左300ml,右 260ml,腹水1000ml,黄色透明)・ 7. 四肢浮腫(中等度、前腕~ 手部、足部)・ 8. 左小脳半球脳軟化(1355 g)・ 9. 出血傾向(腹膜、腸腸筋、 膀胱、胃、小腸、回盲部)・ 10. 褥瘡(仙骨部、右大腿骨頭 部、左踵部)	1. 多発性中枢神経 脱髄症(小脳進行性 多巣性白質脳症+ 大脳急性多発性梗 塞,1355g)・ 2. 肺炎(左1060g, 右1160g,カリニ肺 炎疑い)	1. 心筋繊維化(305g,右室陳旧性 心筋梗塞、左室前壁内膜下斑状繊 維化)+右冠動脈ステント留置後・ 2. 多発性腎(左285g,右260g) +CAPDチューブ挿入状態・ 3. 多発性肝嚢胞(1240g)・ 4. 脾小腺管増生(225g)・ 5. 腔水症(胸水左300ml,右200 ml,腹水1000ml,黄色透明)・ 6. 軽度出血傾向(小腸、膀胱)・ 7. 脾小梗塞(100g)・ 8. 大動脈粥状硬化症(中等度)・ 9. 褥瘡(仙骨部、右腸骨部、左踵 部)	平成20年度 第16回CPC

VII 看護部のあゆみ

1 理念・基本方針・目標

(1) 看護部理念

看護部理念

地域の信頼に応えられる病院づくり、人材の育成、地域住民のニーズに応じた温もりのある安全・安楽な看護を提供します。

(2) 看護部基本方針

一人ひとりが専門職業人としての責任と役割を自覚し看護水準の向上に寄与すると同時に地域の人々が、安心して利用できる病院づくりに貢献します。

(3) 看護部目標

- 1 患者様・ご家族を尊重した看護を実践します。
- 2 明るく知性にあふれ、豊かな人間性を備えた専門職を追求します。
- 3 科学的根拠に基づいた看護を提供します。
- 4 医療安全の組織化に積極的に参画します。
- 5 他職種と協働し、病院経営・組織づくりに参画します。

2 部署別目標

(1) 看護部目標

- 1 職員一丸となり、機能評価を視野に入れた業務標準化に取り組みます。
 - ① 現在の基準、マニュアルの見直し
 - ② 基準、マニュアルの作成と実施
- 2 相手（人）に対し尊厳をもち、心ある態度で接します。
- 3 看護体制（業務体制）の改善に取り組みます。
- 4 教育制度を活用します。

(2) 3階病棟目標

- 1 マニュアルの改訂、作成を行う。
2ヶ月に1回チーム会でチェックする。
- 2 スタッフ全員がマニュアルに沿った看護業務を行う。
2ヶ月に1回チーム会でチェックする。
- 3 接遇サービスの向上を図る。
年2回、スタッフ及び患者に対してアンケート調査を行う。
- 4 業務改善に取り組む。
2ヶ月に1回チーム会でチェックする。
- 5 教育制度を活用する。
- 6 インシデントレポートを活用し、事故防止を図る。
薬に対するインシデントの感度を上げる。

(3) 4階病棟目標

- 1 業務基準、マニュアルを見直し浸透させる。
 - ① 日勤、深夜、準夜、遅出、早出業務などのマニュアルを見直し、浸透させる。
 - ② 整形外科看護マニュアルを作成し、実施する。
 - ③ 記録マニュアル、院内感染マニュアル、安全管理マニュアルに沿った看護を行う。
 - ④ ナースステーションの整理整頓を行う。

- 2 接遇の向上
 - ① 入室時は「失礼します」と言い、ベッドサイドで呼びかけ、ケアについての説明を行ってからケアを開始する。
 - ② 常に温かく心のこもった敬語で話す。
 - ③ 家族や外来者に対し、挨拶し、丁寧な言葉遣いをする。
 - ④ ナースステーションで作業中の場合、立ち上がって対応する。
 - ⑤ スタッフ間では愛称では呼び合わない。

- 3 患者の安全を守り、アクシデント事例を起こさない。
 - ① インシデントレポートを毎月1人2枚提出する。
 - ② インシデント事例は、カンファレンスをし、分析をする。必要時はケアの変更・修正を行う。

- 4 入院早期から患者・家族と関わり、退院後の生活に配慮した援助をする。
 - ① 予定入院の場合、情報収集用紙（外来で配布）を記入する。
 - ② 患者用パスを活用する。
 - ③ 家庭環境アセスメントシートを活用する。

- 5 専門職業人を目指し、教育制度を活用する。
 - ① 1年間の自己目標を3分の2以上達成する。
 - ② 勉強会、研修会に年7回（院外年1回を含む）以上出席する。
 - ③ 3ヶ月に1回以上勉強会を開催する。

(4) 5階病棟目標

- 1 基準・マニュアルを見直す。
- 2 相手に対して尊厳を持つ。
月1回、第三者による評価を行う。
- 3 インシデントレポートを提出し、医療事故への意識を高める。
 - ① 個人表を作る。
 - ② ノートを作り情報を共有する。
- 4 年間計画を立てて、病棟の勉強会を月1回実施する。
- 5 患者個人に合わせたゴールを設定し、退院に向けた援助ができる体制を整える。
入院初期にカンファレンスを行う。

(5) 6階病棟目標

- 1 マニュアルの見直しを行う。
- 2 相手と同じ目線の高さで会話をする。
自己評価と他者評価を行う。
- 3 2交代勤務に移行し、軌道に乗せる。
- 4 研修への参加率を上げる。
- 5 インシデントレポートの提出率を上げる。
毎月1人1枚以上提出する。

(6) 7階病棟目標

- 1 業務及び消化器内科検査マニュアルを見直す。
- 2 笑顔で挨拶を行う。
他者評価を行う。
- 3 研修に参加し、専門職としての知識、技術の向上に努める。
ステップ別習熟度に合わせた向上を図る。

- 4 チューブ・ドレーンの管理を行い、医療事故防止に努める。

(7) 北3階病棟目標

- 1 業務及び内科・小児科検査マニュアルを見直す。
- 2 誰に対しても挨拶をし、笑顔で接する。
他者評価を行う。
- 3 研修に参加し、専門職としての知識、技術の向上に努める。
ステップ別習熟度に合わせた向上を図る。
- 4 インシデントレポートの提出率を上げ、事故防止に努める。
1年間のレポート数をチェックする。

(8) 北4階病棟目標

- 1 基準・マニュアルを見直す。
- 2 積極的に研修に参加する。
病棟勉強会を2ヶ月に1回以上実施する。
- 3 患者、家族、他部門の職員に対して挨拶をする。
評価表を作成し、相手チームの評価をする。
- 4 毎月1枚以上インシデントレポートを提出し事故防止に努める。
個人提出状況から評価する。

(9) 北5階病棟目標

- 1 マニュアルの改訂、作成を行う。
- 2 スタッフ全員がマニュアルに沿った看護業務を実践する。
 - ① マニュアルの定位置化を図る。
 - ② 利用状況をアンケート調査する。
- 3 助産師外来を確立する。
アンケートを作成し、利用者に評価してもらう。

- 4 挨拶を行う。
同僚評価をする。
- 5 院内・外研修に参加する。
勉強会へ2ヶ月に1回参加し、研修参加状況の調査を行う。
- 6 リスクに対する感性を高める。
インシデントレポートを月1枚以上提出する。

(10) HCU目標

- 1 新メンバーの業務チェックの実施と評価を行う。
- 2 新人教育計画を実施し、評価を行う。
- 3 笑顔で丁寧な対応をする。
- 4 看護体制に合わせた業務改善に取り組む。
- 5 ステップに応じた到達目標をクリアするために、自己学習・自己研鑽し病棟全体のレベルアップに努める。
- 6 ヒヤリ・ハット報告を意識付け、医療事故防止に努める。

(11) 外来目標

- 1 各外来業務基準マニュアルを見直し作成する。
- 2 個々の患者に合った対応をする。
他者評価をする。
- 3 外来勉強会を充実させ、少なくとも3ヶ月に1回実施する。
- 4 インシデントレポートを活用し、事故防止に努める。

(12) 手術室目標

- 1 手術室看護基準・中央材料室業務基準・手術看護手順の見直しを行う。
スタッフ全員で見直しを行い、確実に実践する。

- 2 積極的に挨拶・声掛けを行う。
 - ① 術前訪問を継続する。
 - ② 術中訪問を検討する。
 - ③ 術後訪問を実現する。
 - ④ 挨拶・声掛けに対して、自己評価を行う。

- 3 インシデントレポートを活用し、安全で質の高い看護を提供する。
 - ① インシデントレポートの提出率を維持する。
 - ② インシデントレポートの集計・分析を継続する。
 - ③ リスクマネジャーが中心となって、カンファレンスを行い、対策を立てる。

- 4 手術室・中央材料室教育プログラムの見直しを行い、新人育成に取り組み、新プログラムを作成する。

(13) 透析センター目標

- 1 機能評価を視野に入れ、透析室のマニュアルを見直す。

- 2 気持ちの良い挨拶をする。

- 3 安全な透析業務の実施
毎月のチーム会で、その月のインシデントについてリスクマネジャーを中心に話し合いをする。

3 研修実績

(1) 院内研修実績

	研修会名等	主催	参加人数
4月	看護部新組織体制と教育評価制度研修会	看護部	全員
5月	全体教育「遺族の心を癒すエンゼルメイク」	教育委員会	62
	地域公開医療講座「アナフィラキシーショックについて」	地域医療連携室	11
	第3回クリティカルパス大会	クリティカルパス委員会	62
6月	医事紛争防止のために 自治体病院の課題	医療安全管理室 総務企画課	110
	カンガルーフィーディングポンプの使用法. 警報時対応	MEセンター	23
7月	平成20年度災害医療研修会	災害医療部会	201
	院内感染対策講習会	院内感染対策委員会	96
	院内感染対策講習会	院内感染対策委員会	86
8月	学術講演会「経営改善について」	総務企画課	4
	平成20年度災害医療研修会	災害医療部会	105
	NST学習会	栄養サポート部会	73
	看護診断研修会(3回)	看護部	72
	平成20年度災害医療研修会	災害医療部会	109
	第4回クリティカルパス大会	クリティカルパス委員会	101
	医療ガス安全対策講習会	医療ガス安全委員会	76
	平成20年度災害医療研修会	災害医療部会	201
10月	緩和ケア講演会	緩和ケア委員会	43
	平成20年度診療報酬講習会	医療サービス課	49
	トリアージ勉強会	災害医療部会	43
	トリアージ勉強会	災害医療部会	48
11月	プリオン病感染予防講演会	院内感染対策委員会	35
12月	第5回クリティカルパス大会	クリティカルパス委員会	56
1月	教育制度 目標管理 面接について1	看護部 総務企画課	45
	平成20年度災害医療研修会 心のケア	災害医療部会	52
2月	院内感染対策講習会	院内感染対策委員会	76
	第6回クリティカルパス大会	クリティカルパス委員会	67
3月	第3回院内医療安全大会	医療安全対策委員会	99
	平成20年度診療報酬講習会	医療サービス課	67
	学生指導について(1回目)	教育委員会 指導者会	41
	学生指導について(2回目)	教育委員会 指導者会	23

(2) 院外研修実績

	研修会名等	主催	参加人数
4月	看護研究	福井県看護協会	7
	照林社「看護必要度」	照林社	20
5月	第4回日本医療マネジメント学会地方会	日本医療マネジメント学会	6
	「看護の日 記念大会」	福井県看護協会	17
	第7回嶺南感染コントロールフォーラム	嶺南感染フォーラム	6
	敦賀市医師会学術講演会	敦賀市医師会	2
	北陸がんプロフェッショナル養成プログラム インテンシブコース	福井大学	1
6月	看護研究のクリティーク	福井県看護協会	18
	日本看護学会 一看護総合ー	福井県看護協会	4
	ワークライフバランス多様型勤務	日総研	5
7月	新人研修	福井県看護協会	18
	固定チームナーシング近畿地方会	固定チーム研究会	2
	福井県褥瘡・創傷セミナー	(株)スミス アンド ネフューウンドマネジメント	4
	固定チームナーシング北陸地方会	固定チーム研究会	8
8月	シリーズ「看護研究Ⅳ」	福井県看護協会	7
	衛星通信研修 嚙下障害をもつ患者の看護	福井県看護協会	2
	衛星通信研修 ワークライフバランス	福井県看護協会	3
	がん看護について考える	福井県看護協会	3
	第15回認知症介護フォーラム	敦賀市医師会	2
	がん看護実践力向上研修	福井県看護協会	3
	看護協会敦賀地区支部 看護師のストレスとメンタルヘルス	福井県看護協会	31
	在宅医療の現状と課題について	二州高齢者包括研究会	7
	看護協会敦賀地区支部 看護師のストレスについて	福井県看護協会	31
9月	看護職員リフレッシュ研修会	福井県看護協会	9
	助産師実務研修	福井県	1
	臨床指導者研修会	全国自治体病院協議会	2
	医療安全フォーラム	福井県看護協会 福井大学	3
	緩和ケア研修	独立行政法人国立病院機構福井病院	1
	医療現場におけるリスクマネジメント入門	日本リスクマネジメント研修センター	2
	新人会員研修会	福井県看護連盟	6
	心電図セミナー	メディカルシステム研修所	3
	日本手術看護学会北陸地区研修	日本手術看護学会北陸支部	4

	研修会名等	主催	参加人数
10月	看護協会敦賀地区支部 ステップアップ糖尿病ケア	福井県看護協会	28
	一般病棟における精神疾患患者の看護	福井県看護協会	3
	福井呼吸ケア研究会 呼吸リハビリテーション	福井呼吸ケア研究会	4
	看護師長研修	福井県看護協会	2
	緊急被ばく医療訓練の実施について	福井県	2
11月	緊急被ばく医療福井フォーラム	原子力安全研究協会	6
	第8回嶺南感染フォーラム	嶺南感染フォーラム	6
	中堅ナースの役割ストレスと対策	実習指導者会	1
	コーチング	福井県看護協会	4
	災害看護リーダー研修会	福井県看護協会	2
	緊急被ばく医療基礎講座1	原子力安全研究協会	2
	医学看護公開教育セミナー	公立丹南病院	9
	准看護師研修会	福井県看護協会	11
東海北陸地区リスクマネージャー交流会	福井県看護協会	4	
12月	タイムマネジメントを学ぶ	福井県看護協会	2
	福井赤十字救護研修	日本赤十字社福井県支部	2
	看護連盟敦賀支部研修 医療安全	福井県看護連盟敦賀地区支部	50
1月	日本医療マネジメント学会第8回福井県地方会	医療マネジメント学会福井県地方会	10
2月	臨床で起こりやすい倫理的問題	福井県看護協会・連盟	30
	OHスケールによる褥瘡予防と対策について	シガドライウイザーズ	3
	接遇研修	全国自治体病院協議会	7
3月	心のケア研修会 災害時	日本赤十字社福井県支部	1
	AED講習会	福井県看護協会	1
	第26回福井県看護研究発表会	福井県看護協会	21
	産科学会	金沢西保健所	3
	地域連携に関する研修会 4階事例発表	二州健康福祉センター	13

(3) 教育研修実績

	教育研修名	出張先	出張者名
4月	県市町職員新規採用職員研修	自治研修所	新規職員
5月	福井県院内移植コーディネーター研修会	福井県立病院	藤村 美智代 藤井 優子
6月	福井県看護協会「実習指導者研修」	福井県看護協会	東 ゆか
7月	福井県院内移植コーディネーター研修会	福井県庁	藤村 美智代 藤井 優子
	透析療法従事職員研修	大宮 ソニックシティ	山本 高子
9月	産科医療支援助産師活用事業先進事例視察研修	杏林大学医学部付属病院・深谷赤十字	川瀬 みどり
	福井県がん看護実践力向上研修	看護協会・福井赤十字	仲間 有希
	臨床実習指導者研修会	東京都都市センター	山本 寿美子 大矢 真由美
	助産師実務研修	杏林大学医学部付属病院	山本 真穂
10月	第47回全国自治体病院学会	県産業会館	角田・川瀬・田中知 塚原・城越・小堀和
	第15回認定看護管理制度ファーストレベル	福井県看護協会会館	山田 久美子 藤原 貞美子
	平成20年度認定看護管理制度セカンドレベル	京都府看護協会	田中 知子
11月	全国自治体病院協議会 看護管理研修会	ホテルアウイーナ大阪	藤長 真由美 宇野 里奈
12月	院内移植コーディネーター研修会	福井県庁	藤村 美智代 藤井 優子
1月	福井県看護協会定例研修会	福井総合病院	城越 広恵
	第8回日本医療マネジメント学会	アオッサ	中村 祐子
	HIV/AIDS看護教育フォローアップ研修	石川県立中央病院	飯田 登美子
	平成20年度海外視察研修	デンマーク・スウェーデン・ドイツ	稲垣 香緒里
2月	透析療法を受ける患者の看護	看護協会・神戸研修センター	大野 みのり
	福井県院内移植コーディネーター研修会	福井県済生会病院	藤村 美智代 藤井 優子
	第30回緊急被ばく医療セミナー	放射線医学総合研究所	石田 順子
3月	福井県院内移植コーディネーター研修会	福井県国際交流会館	藤村 美智代 藤井 優子

【講演実績】

1. 福井県看護協会「不妊外来定期相談」(加藤 つよ子)
2. 福井県看護協会「看護職への道」(鳴美 里美)
3. 福井県看護協会「平成20年度新人研修会」(山田 幸代)
4. 福井県立敦賀高校社会人教師「トーク」(出雲 和代)
5. 福井県看護協会「看護師再就業講習会」(塚原 洋子)
6. 福井県看護協会「看護実践力育成研修」(加藤 久代)
7. 敦賀北小学校「ようこそ先輩」(堀場 陽子)

【派遣実績】

1. 09敦賀市訪韓児童親善使節団派遣事業(赤尾 優子)
2. 福井県AED普及啓発協議会実習インストラクター(久保 幸子 前田 晶子)

【院内伝達講習会発表】

1. 海外研修発表 : 稲垣 香緒里
2. 癌緩和ケア研修内容発表 : 仲間 有希

【学会・研修会 座長】

1. 第47回全国自治体病院学会座長
角田 敬子 川瀬 みどり 田中 知子
塚原 洋子 城越 広恵 小堀 和美
2. 福井糖尿病看護研究会第3回研修会座長
加藤 久代

VIII 臨床研修プログラム概要

<平成20年度 市立敦賀病院臨床研修プログラム概要>

1 プログラムの名称

市立敦賀病院臨床研修プログラム

2 プログラムの目的と特徴

プライマリー・ケアを中心に医師として必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を身に付け、患者とのコミュニケーションやチーム医療など医療人としての人格を涵養することがこの研修プログラムの目的です。

当院の卒後臨床研修は、協力型（金沢大学附属病院、福井大学医学部附属病院）及び管理型臨床研修病院として、病院群を形成し連携をとりながら研修を行います。また、地域保健・医療における保健所、診療所などの研修を始めとして、本院で行う各診療科のプログラムの一部を担うため、豊富な研修協力施設を設けています。

なお、当院の協力型研修は、金沢大学附属病院および福井大学医学部附属病院と各々たすきがけ方式を採用していますので研修のコース選択によっては両大学の研修プログラムと全く同じか一部重複するところがあります。

3 研修方式及び研修内容

当院、猪原病院、二州健康福祉センターなどにおいて研修を行います。

(1) オリエンテーション

研修開始直後の数日間はオリエンテーションを行います。研修を円滑に実施できるよう、カルテの記載、インフォームド・コンセント、医療事故、院内感染、チーム医療、保険医療など、医療を行うために必要な事項を学びます。

(2) 基本科目研修

基本科目研修では、内科6ヶ月、外科3ヶ月、救急・麻酔科3ヶ月の研修を行います。

- ① 内科研修では、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、透析の内科領域の到達目標を達成できるようローテート研修します。
- ② 外科研修では、外科的疾患に対する診断法・手術手技・術後管理の基本と外科的救急疾患へのプライマリー・ケアが修得できるよう研修します。
- ③ 麻酔科研修では、麻酔科医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。
 - ・患者の全身状態の把握の仕方と患者との接し方を会得する。
 - ・呼吸、循環、代謝などの全身管理学の基本を手術麻酔管理を通じて身に付ける。
 - ・手術室での研修を基本として、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を修得する。
 - ・疼痛を中心とした神経管理・除痛、調整、回復蘇生の技術を外来、手術室、病室において研修する。
- ④ 救急研修では、救急初期診療の実践訓練を主体とします。全ての救急患者に対して、電話連絡の時点からの情報収集、患者や家族、救急隊へのアドバイスを含めて、救急室における初期診療全般に関して、救急・麻酔科医師の監督、指導のもとに実践します。またローテーション中に心肺蘇生のミニ訓練コース、外傷初期診療のミニ訓練コースを受講していただきます。

(3) 必修科目研修

2年目の必修科目研修では、小児科2ヶ月、産科婦人科2ヶ月、神経科精神科1ヶ月、整形外科1ヶ月、脳神経外科1ヶ月、地域・保健医療1ヶ月とし、残りの研修期間については研修医の希望によりコースを組み合わせる選択することができます。

- ① 小児科研修では、小児医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修

得します。

- ・小児および小児期の疾患の特性を学び、小児の診療の特性を学ぶ。
- ・検診などを通して発育、発達についての知識を深める。
- ・年齢による検査値や薬用量の違いを知る。
- ・母親など保護者との信頼関係の確立とコミュニケーションの保持に努める。

- ② 産婦人科研修では、一般患者全般を診るために必要な産科婦人科診療を体験し学びます。具体的には、妊娠に関連する症状や異常、婦人科疾患による諸症状を、他の異常と見誤らない能力と知識を身につけます。
- ③ 神経科精神科研修では、精神疾患に対する診断、治療、予防についての健全な臨床的判断とそれに必要な知識を修得します。
- ④ 整形外科研修では、整形外科一般、新鮮外傷、脊椎疾患、関節疾患、手の疾患の基本的知識・技能を修得します。またスポーツ医学の意味を体験的に理解し、リハビリテーションの初期研修を行います。
- ⑤ 脳神経外科研修では、脳神経外科の初期診療として、急性期および慢性期の疾患の判断能力、すなわち、問診、神経学的検査、画像診断の技能を身に付けるとともに、術前術後管理を修得します。
- ⑥ 地域保健・医療研修では、次の4つの教育目標を修得します。
 - 地域医療：「かかりつけ医」として必要な技能と判断力のうち最低限度のものを身につける。
 - 地域保健：地域保健の推進機関としての健康福祉センター(保健所)の機能と役割を理解する。
 - 産業保健：職域における安全衛生管理の実際を理解する。
 - 国際保健：途上国を含む海外諸国の疾病構造の特徴を元に、必要な知識・技能を修得する。

(4) 選択科目研修

選択科研修は、それまでの研修で不十分であった部分を補ったり、将来の進路に合わせたり、研修医の自由選択により、本院の次の診療科から1～2科を選択して研修を行います。

内科：消化器、循環器、血液、アレルギー・膠原病、感染症、神経、脳血管障害、内分泌代謝、腎・透析・高血圧、呼吸器、小児科、呼吸器外科、消化器外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、神経科精神科、救急・麻酔科

4 研修協力病院・施設

地域の研修協力病院や研修施設と連携をとりながら効果的な研修を行います。これらの病院や施設には特色あるプログラムが用意されています。

- ・協力型臨床研修病院：医療法人積善会 猪原病院（精神科）
福井大学医学部附属病院救急部（救急部門）
- ・臨床研修協力施設：福井県立病院救急部（救急部門）
二州健康福祉センター（地域保健・医療）
福井県赤十字血液センター（地域保健・医療）
医療法人保仁会 泉ヶ丘病院（地域保健・医療）
美浜町東部診療所（地域保健・医療）

5 研修指導体制

研修の管理責任者は市立敦賀病院長であり、病院長のもとに研修管理委員会を置き研修の計画から修了認定までを管理します。また、研修期間中プログラム及び研修医の指導・管理を担当するプログラム責任者、研修医を直接指導し評価を行う研修指導医を置きます。

(1) 研修管理委員会

研修管理委員会は、病院長、プログラム責任者、副プログラム責任者、各診療科研修実施責任

者および臨床研修協力病院、地域保健・医療を含めた研修協力施設の代表者及び事務責任者で組織し、臨床研修プログラム及び研修医の管理、評価等を行います。

(2) プログラム責任者

プログラム責任者は、研修プログラム全体を統括し、全研修期間を通して研修医の指導・管理を行います。また、1名の副プログラム責任者、各診療科および各臨床研修協力病院に研修実施責任者を置き、当該診療科等の研修期間中プログラムを管理し研修医の指導・管理を行います。

(3) 研修指導医

指導医は、研修プログラムに基づき直接研修医を指導し、研修医に対する評価を行います。指導医は臨床経験7年以上で、プライマリー・ケアを中心とした指導を行える十分な能力を有する者とし、診療科長の推薦により病院長が任命します。なお、研修協力病院及び研修協力施設の指導医はその病院又は施設の長に委ねます。

(4) 臨床研修の評価と修了認定

- ① 指導医は担当する診療科での研修期間中、研修目標の到達状況を適宜把握し、研修実施責任者に報告します。
- ② 各診療科の研修実施責任者は、当該研修期間が終了したとき、研修医の目標到達状況をプログラム責任者および研修管理委員会に報告します。
- ③ 研修管理委員会は、研修終了時に、勤務記録、行動目標や経験目標の到達度などで総合的な評価を行います。病院長は、研修管理委員会が臨床研修を修了したと認めるときは臨床研修修了証書を交付します。また、臨床研修を修了したと認めないときは、その理由を文書で研修医に通知します。

6 研修医の募集人員および選抜方法

管理型研修プログラムを全国に公開しマッチング方式により全国から募集します。大学病院との協力型研修の場合は、全国公募はありません。応募の窓口は臨床研修センターとします。

(1) 募集人員

本院の定員は6名です。

(2) 選抜方法

研修医の選抜は、書類審査及び面接により行います。面接は夏季休暇期間中に複数回実施します。出願書類、選抜期日など詳細は決定次第発表します。

(3) 選考結果通知

医師臨床研修マッチングの結果により決定し、速やかに本人に通知します。

7 処遇

処遇については以下のとおりです。なお、研修協力病院における処遇は、当該病院の定めるところによります。

身分	臨時医師
給与	1年目 485,000円 2年目 500,900円 (医師手当、地域手当、夜間救急医療業務手当、病院業務手当含む。)
その他手当	超過勤務手当、宿日直手当等
賞与	1年目 計 888,750円 2年目 計 1,382,170円
勤務時間	8時30分～17時15分
休日・休暇	土・日曜日、祝日、夏期休暇 3日、年次休暇、特別休暇等（正職員に準ずる。）
宿舎	あり
社会保険等	社会保険、厚生年金、労災保険、雇用保険適用

医師賠償責任保険 施設として加入
 その他 学会、研修会の旅費及び負担金支給あり
 (海外旅費等の支給も別途あり)

8 臨床研修ローテーション表

・1年次基本必修科目(基本パターン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科			救急・麻酔科			内科			外科		

・2年次必修および選択科目(基本パターン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次	小児科		産婦人科		精神科	整外	脳外	地域保健	選択科目			

9 研修施設指定 (平成21年3月末現在)

日本内科学会教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
 日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設
 日本消化器外科学会専門医修練施設、日本胸部外科学会関連施設
 マンモグラフィ検診施設、日本整形外科学会研修施設
 日本脳神経外科学会専門医訓練施設(C項)、日本泌尿器学会専門医教育施設
 日本眼科学会専門医制度研修施設、日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
 日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本手の外科学会研修施設
 日本臨床細胞学会認定施設、呼吸器外科専門医認定機構関連施設

<初期臨床研修医の採用状況>

	定員 (管理型)	採用数		
			管理型	協力型
平成16年度	4	1	0	1
平成17年度	4	4	2	2
平成18年度	4	2	1	1
平成19年度	6	2	2	0
平成20年度	6	6	3	3
平成21年度	6	3	2	1

参 考 资 料

市立敦賀病院中期経営計画

概 要

市立敦賀病院では、地域医療確保のため、市立敦賀病院の役割の明確化や経営改善を図ることを目的に、平成20年12月に中期経営計画を策定。

計画の期間は平成21年度から25年度までの5年間。

【役割】

(1) 急性期医療

二州地区（敦賀市、美浜町、若狭町の一部（旧三方町））の中核的病院として、診断や治療を主に担う急性期の医療を担う。

(2) 不採算・政策医療

救急医療や災害時医療、周産期医療、小児医療、がん、エイズなどの不採算、政策医療を担う。

(3) 地域医療連携推進

地域の医療機関との連携を推進する中心的役割を担う。

(4) 地域の医療水準向上

地域の医療水準の向上を図るため、高度医療機器の充実を図る。

(5) 人材育成

医師及び看護師などの人材育成の場を提供する。

【主な数値目標】

項 目	平成19年度 実績	平成20年度 見込	平成25年度 目標数値
経 常 収 支 比 率	95.0%	94.3%	98.2%
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率	60.4%	59.1%	50.7%
病床利用率（332床）	78.5%	83.5%	84.3%

数値は公立病院改革ガイドラインの算出方法による。

【取り組み項目】

- (1) 人材の確保・育成
医師確保策の強化、医師事務作業補助者の配置充実、認定看護師の養成、教育・研修制度の充実、職場環境の改善
- (2) 医療機能の充実及び急性期病院としての確立
救急医療の維持・充実、高度医療機器の利用、整備、災害医療訓練の実施、透析センター対応規模の増加、DPC（診断群別定額払い方式）導入、クリティカルパス（治療計画書）の活用、平均在院日数の短縮、手術室における手術件数の増加、診療情報の電子化の推進、地域医療支援病院の承認、紹介率、逆紹介率の増加
- (3) 医療の質の向上
医療安全大会の開催、チーム医療の推進、病院機能評価認定更新（第三者評価）の活用
- (4) 患者サービスの向上
患者アンケートの実施、職員接遇研修会の実施、ボランティア養成講座への協力、かかりつけ医制度、救急受診方法の広報、病院情報の提供
- (5) 地域医療連携の充実
開放型病床利用率の向上、地域連携クリティカルパスの充実、退院支援の充実、初診時保険外併用療養費の検討
- (6) 診療体制、運営規模の適正化（運営規模は、当分の間332床で運営。）
診療体制及び運営規模の検討
- (7) 収入増加、経費削減・抑制
自費診療費の検討・見直し、差額病床の料金設定の検討・見直し、新規施設基準、加算等の取得、未収金回収業務委託の拡充、委託化の推進、委託業務の整理・統合、後発医薬品利用の推進、人間ドック利用者数の増加、駐車場の料金設定検討、診療科別損益等分析の活用
- (8) 意識改革
職員への経営状況の周知、職員の意欲向上

【点検・評価】

外部の委員を含めた点検・評価委員会（仮称）を設置し、計画の実施状況を検証していく。

※ 詳細は、ホームページ上に公開してありますので、ご参照ください。

<http://www.city.tsuruga.lg.jp/sypher/www/info/detail.jsp?id=4033>

市立敦賀病院の患者権利章典

患者さんは、人間としての尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は患者さんと医療従事者との互いの信頼関係の上に成り立つものであり、患者さんに主体的に参加していただくことが必要です。

当院では、このような考え方にに基づき、ここに「市立敦賀病院の患者権利章典」を制定します。

患者さんの権利

1 良質な医療を公平に受ける権利

社会的な地位、信条、障害の有無などに関わらず、良質な医療を公平に受ける権利があります。

2 個人の人格が尊重される権利

個人の人格、価値観などが尊重され、医療従事者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

3 個人の情報やプライバシーが守られる権利

診療に関する個人情報やプライバシーは厳正に保護される権利があります。

4 病気、検査、薬、治療方法などについて、十分な説明、情報提供を受ける権利

自分が受ける治療や検査の効果や危険性、薬の効果や副作用、他の治療方法の有無などについて、理解できるまで十分な説明を受ける権利があります。

5 治療方法などを自らの意思で選択する権利

十分な説明、情報提供を受けた上で、自分の治療計画を立てる過程に参加し、治療法などを自らの意思で選択する権利があります。その際、別の医療機関の意見（セカンド・オピニオン）を聞きたいというご希望も尊重します。

6 自分が受けている医療について知る権利

自分が受けている医療について不明なことがあれば、医療従事者に質問することができ、自分の診療記録の開示を求める権利があります。

患者さんにしていただきたいこと

7 医療に関する説明に対し、十分理解できるまで質問してください

納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについては、十分理解できるまで質問してください。

8 自身の健康に関する情報を正確に提供してください

良質な医療を実現するために、医療従事者に対し、患者さん自身の健康に関する情報（家族歴、既往歴、アレルギーの有無など）をできるだけ正確に提供してください。

9 必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください

治療効果の向上のために、医療従事者とともに病気を治していくという姿勢で、必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください。

10 他の患者さんが適切な治療を受けられるように配慮してください

患者さんは通常の社会生活にはない制約を受けざるを得ない場合もあります。病院の規則などを守り、他の患者さんの治療や病院職員による業務などに支障を与えないよう配慮してください。

医療事故防止のための8カ条

第1条 医療従事者は、医療事故はいつでも起こりうるものであるという「危機意識」を常に持ち業務にあたる。

第2条 患者さん最優先の医療を徹底し、患者さん本位の医療を実践する。

第3条 業務にあたっては基本的事項の遵守と確認、再確認を徹底する。

第4条 患者さんとのコミュニケーションには十分配慮し、患者さんや家族への説明は、その内容が十分理解されるよう心がける。

第5条 診療に関する諸記録は正確かつ丁寧に記載するとともに、相互チェックを実施する。

第6条 自己の健康管理には十分留意し、万全の体制で業務にあたる。

第7条 職員の具体的、実践的な教育・研修を実施する。

第8条 病院管理者、所属長が率先して医療事故防止に対する意識改革を実践する。

病院年報編集委員会

編集委員長 米島 學

編集委員 飯田 茂穂 上田 裕朗

池田 孝之 角田 敬子

小倉 和彦 山本 治和

柴田 智之 粕谷 聡

市立敦賀病院年報（平成20年度）

平成21年8月19日発行

編集 病院年報編集委員会

発行 市立敦賀病院

〒914-8502 福井県敦賀市三島町1-6-60

TEL 0770-22-3611